

「高校生のための学びの基礎診断」認定にあたっての指摘事項」に対する回答

団 体 名 : 学研教育みらい

測 定 ツ ー ル 名 : 基礎力測定診断ベーシック

指摘事項	対応状況
<p>○学習指導要領との関連にも留意しつつ、どのような資質・能力を測定しようとするのか</p>	<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 論理的文章（評論） 筆者の主張やその根拠、表現の意図を的確に捉えることができる能力を測定する。記述式の設問では、読み取った内容について表現を工夫して説明することができる能力を測定する。 ・ 文学的文章（小説） 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化について、描写をもとに捉え、読み味わうことができる能力を測定する。記述式の設問では、読み取った内容について表現を工夫して説明することができる能力を測定する。 ・ 古文 平易な古文の文章について、文語のきまりを理解しながら、文章の内容を捉えることができる能力を測定する。伝統的な言語文化への興味・関心を測定する。 ・ 漢文 平易な漢文の文章について、漢文のきまりを理解しながら、文章の内容を捉えることができる能力を測定する。 ・ 複合的文章 詩歌や古文などを含む評論等、複合的な文章を読み、筆者の主張や表現の意図を捉えることができる能力を測定する。詩歌や古文などの引用部分を本文の内容と結びつけて、知識を活用できる能力を測定する。 <p>【数学】</p> <p>基礎学力の定着を最大の目標として、義務教育段階での知識・技能が確かに身についているかを測定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数と式の計算 中学から高校までの数や式の計算を中心に、数の四則計

算や整式の計算や因数分解、方程式

などの基礎的な計算や処理を正しく行うことができるかを測定する。

・関数

1次関数や2次関数を題材として、式やグラフを相互に関連づけて理解しているかを測定する。

・図形

図形の基本性質や角、線分の長さ、面積、体積の計量などを正確に行うことができるかを測定する。

・数と式

無理数の計算や式の計算、式変形などが正確に行えるかを測定する。

・2次関数

2次関数についてグラフを考察し、値の変化の様子をグラフを通じて調べることができるかを測定する。

・三角比

三角比の意味と相互関係を理解し、三角比を図形の考察に活用できるかを測定する。

【英語】

・大問1 リスニング

1文の英語による質問文を聞き、その返事として最も適切なものを4つの選択肢の中から1つ選ぶ問題を出题する。英語を聞く能力と、質問の内容を理解し、適切な応答ができる能力を測定する。

・大問2 語彙

AとBの2つの形式で出题する。

A：高校1年生として、ぜひ覚えておきたい単語を出题し、語彙力を測定する。単純な英訳問題ではなく、イラストから単語を推測したり、ヒントを頼りにクロスワードパズルを解く形式で出题する。

B：場面が設定された1往復の対話文を出题する。場面状況にあった対話になるように空所に単語を補充する問題を出题し、どのような場面で対話が行われているのかを把握する力を測定する。

・大問3 文法・語法

高校1年生として知っておくべき中学学習範囲の英文法

の理解度を測定する。問題の回毎に出題文法項目を設定し、その文法の理解度を測定する。

・大問4 読解

AとBの2つの形式で出題する。

A：150～200語程度の英文の読解問題を出題する。設問については、文法に関する問いを極力避け、英文の内容を確認する問題を出題し、英語の読む能力を測定する。

B：150語程度の広告やEメール文を読み、その内容に関する問題を出題する。与えられた情報から問題の答えを検索する能力を測定する。

・大問5 英作文

AとBの2つの形式で出題する。

A：場面が設定された1往復の対話文形式で、英語の語整序問題を出題する。文法の理解度だけでなく、与えられた場面と対話の応答の両方からどのような発話が行われているのかを推測する能力を測定する。

B：与えられた場面設定とイラストを見て、そのイラストに描写された人物の心情をくみ取り、その人物になりきって15～25語の英文を書く。英語で表現する能力を測定する。

○その資質・能力を測定するには、どのような出題内容・方法が適切か

【国語】

・高校1年生に身近な内容の文章を素材として出題することを意識する。記述式の問題の無回答率も目立ったので、今後は解答に必要なキーワードをいくつか提示するなどして難易度を調整し、取り組みやすい出題を目指したい。

・高校1年生が対象であることもあってか、古文・漢文の問題の正答率が低かった。事前事後学習教材との連動を意識し、生徒がPDCAサイクルを回す中で学力を向上させられるような出題を目指したい。

【英語】

高校1年生に身近な内容の文章を素材として出題することを意識する。特に大問5Bの英作文問題については、アンケートで「書く内容は思いついたが、英語が思いつ

かなかった」と回答している答案が大変多かった。イラスト内にもう少し記述時の参考となるようなキーワードなどを提示して取り組みやすい出題を目指したい。

【数学】

基礎学力の定着を最大の目標として、義務教育段階での知識・技能が確かに身についているかを明確に診断するために、おもに単問や小問形式を中心に測定する方向で考えている。

また、理解の程度や本人の学習意欲や態度を測定する方法としては、「基礎学力の運用を主体とした思考力・判断力・表現力」の有無を測定するものとして、「記述式問題」を出題の中心としている。

記述式問題では、解答率も低く、白紙が目立ったので、より取り組みやすい問題を目指していきたい。

○学習指導要領を十分に踏まえたものとなっていないのではないか等のご指摘について

学年が進んで現れる数学A、数学II、数学Bなどは、生徒の学習状況や進路状況に柔軟に対応できるように選択問題を設定している。「既存の模試」との転用とのご意見もいただいているが、「知識・技能」を主体とする基礎学力の有無を測定する問題形式としては、基本的な運用能力が測定できる小問形式が最適である、という考えに基づいて問題作成を行っているので、その部分においては、問題の形式や内容はある程度は一致する。しかし、新たに取り入れた「思考力・判断力・表現力」を測定する問題は、従来とは異なる方針で作成されている。生徒の「学び」に主眼をおいた教材作成においては、今後も「学習指導要領」の精神や「高大接続改革」の方向性をにらみ、既に実施されている「大学入試共通テスト試行調査」や全国学力・学習状況調査なども参考にし、さらなる問題の検討を重ねていく。

【英語】

今回の『基礎力測定診断』においては、既存の問題の流用・改編は一切行わず、作問の段階でどのような問題を出題するかを入念に検討して出題項目を決定し、すべて新作で作成した。今後もこの方針は継続していく。ま

	た、設問文の書き方や出題内容については『全国学力・学習状況調査』を参考にした。
○英語教育改革の方向性を十分に踏まえたものとなっていないのではないかの指摘	大問2や大問5で出題している対話文においては、その場面を明確にし、どのような場面でどのような発話が行われているのかを受験者が想像しやすいものにした。また、大問4Bのような、広告文の読み取り問題を出題し、受験者が今後英語を日常生活で使用する場面を想定し、解答できる問題となるように制作した。今後も様々な日常生活で触れることがあると思われる場面を想定した問題を作成していく。
○低廉な受検料	受検料については、極力抑えた設定を心掛けている。他社に比べて最も低廉な価格を実現している。

「高校生のための学びの基礎診断」認定にあたっての指摘事項」に対する回答

団 体 名 : 公益財団法人 日本数学検定協会
 測定ツール名 : 実用数学技能検定 3級
 実用数学技能検定 準2級

指摘事項	対応状況
<p>新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、出題内容・形式を考えるにあたっては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領との関連にも留意しつつ、どのような資質・能力を測定しようとするのか ・その資質・能力を測定するには、どのような出題内容・方法が適切かを明確にしなが、検討することが望ましい。 <p>また、これらの観点での事後検証を行う際には、学校現場の意見も十分に踏まえて行うことが望ましい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習指導要領との関連に留意し、問題ごとに測定しようとする資質・能力の具体的内容を定めています。 学習指導要領の改訂を十分に考慮し、測定しようとする資質・能力を再検討し必要に応じて変更を加えることとしています。 ・測定する資質・能力に応じて出題内容・方法を定めています。1次：計算技能検定では計算問題を中心に主として知識・技能を測定する問題を出題しており、解答方法は短答式としています。2次：数理技能検定では思考力・判断力・表現力を測定することを重視する問題は記述式として出題しています。 ・検定問題の出題内容・方法に関しては、これまでも独自性を保ちつつ学校現場の意見を取り入れて改善してきました。今後も学校現場の意見を十分に踏まえて、時代に合った検定となるよう改訂を加えていきます。
<p>診断結果によって学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資するよう、以下の取組例も参考にするとともに、学校現場のニーズも十分に踏まえつつ、結果提供について、不断の改善に努めることが望ましい。</p> <p>特に、新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1次：計算技能検定では主として知識・技能を測定し、2次：数理技能検定では主として思考力・判断力・表現力を測定します。 ・診断結果として個別成績票と団体別成績票を発行し、学校を通じて紙媒体により返却しています。 ・個別成績票には、小問ごとに問題の内容と個人の得点、全体の正答率を提示し、全体と比較してよく

が重視されていることも踏まえ、学習内容の定着度を正答状況やスコア等によって示すにとどまらず、全体及び領域等毎の「～できる」の記述文による評価を示すなどの工夫を検討することが望ましい。その際、可能な限り学習指導要領に沿った評価を行うことが望ましい。

また、「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」などの観点別の評価を実施する場合には、各設問が、新学習指導要領の指導事項に記載されている「知識及び技能」・「思考力、判断力、表現力等」のいずれを問うているのかの基準・考え方が分からなければ、当該評価が信頼に足るものなのかを判断し得ないことから、学校現場に何らかの形で判断材料を提供することが望ましい。

できた問題、課題が見られた問題を色分けして示しています。また、学習指導要領に沿って内容別に正答率を提示していますので、学習内容ごとの定着度がわかりやすい構造になっています。これらは表やグラフで表示していますが、総合的な評価コメントは記述文による評価を成績別及び学習内容別に、不合格者には復習すべき内容を、合格者には次に学習すべき内容を示し、検定受検後の学習に役立つよう工夫しています。

・団体別成績票には誤答類型に基づいた答案の分析を掲載していますが、個別成績票では誤答類型に基づいた学習のアドバイスはしていません。今後の検討課題とします。

・合格者に対しては1階級上の準2級の問題を、不合格者に対しては3級の復習問題を提示して、事後の学習に役立てられるようにしています。

・団体別成績票は、学校単位での成績を提供しています。団体と全体の合格率及び平均点の比較や、団体の得点分布、内容別正答率等の成績を表及びグラフで示しています。評価コメントは学習内容別に記述文によって示し、検定受検後の指導に役立てることが出来ます。また、特定の問題に対して予め解答類型を定めて採点し、主要な類型とともに反応率を示すことにより誤答の傾向がわかるので、指導に生かすことが出来ます。

・学習教材については、弊会で発行している「要点整理」シリーズの問題集が学年対応（1教材が2～3学年に対応）となっており、予習復習に適しています。

・学校等には加工可能なCSV形式で受検者の小問ごとの得点を提供しています。

団体の経年変化を示すデータは提供していません。今後の検討課題としています。

結果に関する分析会も実施していませんが、分析結果を実施校に提供したりホームページ等で公開したりすることを検討しています。

高校生の基礎学力の定着を目的とする基礎診断制度の趣旨に照らすと、生徒の学力の推移を可能な限り正確に把握することができる必要がある。このため、単に経験則によるのではなく、統計的指標などを用いて各回の試験で難易度が安定しているか否か（信頼性）の検証や測定内容の妥当性をテスト理論の観点から行うなど、不断の検証・改善に努めることが望ましい。

できるだけ多くの生徒が受検しやすくなるよう、基礎診断として求められる要件や、有することが望ましい機能とこれらに係る経費とのバランスを踏まえながら、受検料についてできるだけ低廉な価格設定とすることに加え、経済的に困難な事情にある生徒への配慮を行うことが望ましい。

・毎月1回弊会内部で検定問題等に関する会議を開き、検定問題の内容や質、及び全国学力・学習状況調査の調査問題等について研究し、時代に合った検定となるよう問題の改善を重ねています。

・外部の調査会社に検定結果に関する分析を委託し、各回の検定問題の水準が一定に保たれているか検証しています。1次：計算技能検定の問題の内容はほぼ一定で短答式であることから、分析しやすく、水準が安定していることがわかっています。2次：数理技能検定については、全体の問題数が少なく、回次ごとの出題内容が数種類のパターンには分類できるものの一定ではないため分析が難しく、調査結果は未だ出ていませんが調査を継続していきます。

・2次：数理技能検定は、記述式の問題があり、また短答式でも部分点が生じる問題が多く、多くの採点者と採点時間が必要なため、低廉な価格で実施するには、問題の構成等多くの変更を加えなければなりません。現在の問題構成の良さを考えると早急に変更する予定はなく、価格を下げることは検討していません。しかし、受検しやすさという観点から、低廉な価格であることは重要ですので今後の検討課題とします。

・受検者5人以上で団体受検ができるよう定めていますが、島嶼・山間部の学校や小規模校、障害のある生徒の受検に関しては人数の下限を設けていません。

経済的に困難な事情のある生徒への配慮については、教育委員会の補助による受検、校長裁量による公費での受検といった例はありますが、弊会では特別な配慮はしていません。

「高校生のための学びの基礎診断」認定にあたっての指摘事項」に対する回答

団 体 名 : 公益財団法人 日本数学検定協会

測定ツール名: 数検スコア基礎診断 数I・数A (項目別診断)

数検スコア総合診断 数I・数A

指摘事項	対応状況
<p>新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、出題内容・形式を考えるにあたっては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領との関連にも留意しつつ、どのような資質・能力を測定しようとするのか ・その資質・能力を測定するには、どのような出題内容・方法が適切かを明確にしながら、検討することが望ましい。 <p>また、これらの観点での事後検証を行う際には、学校現場の意見も十分に踏まえて行うことが望ましい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校学習指導要領及び中学校学習指導要領との関連に留意し、問題ごとに測定しようとする資質・能力の具体的内容を定めています。 学習指導要領の改訂を十分に考慮し、測定しようとする資質・能力を再検討し必要に応じて変更を加えることとしています。 ・測定する資質・能力に応じて出題内容・方法を定めています。主として知識・技能を測定する問題は短答式、選択式としています。思考力・判断力・表現力を問う証明問題については記述式とし、解法の過程を観ることを重視しています。 ・CBTでの実施のため、選択式、短答式の問題に関しては自動採点が可能ですが、記述式の問題の採点は目視で行っています。採点効率を考慮したうえで、今後記述式問題を増やすことを検討しています。 ・記述式問題の解答の入力については、項目別診断の前に行うWEB分析及びチュートリアルで入力方法を示しており、入力の技術で成績に差がでないよう配慮しています。冪乗、三角比等の数式の入力も可能です。分数、平方根の入力については教科書等の記述とはやや異なりますが、実証実験では入力についての質問・意見等はありませんでした。新規に開発したツールであることもあり、今後も学校現場の意見を取り入れ改善していきます。
<p>診断結果によって学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・診断結果については、個別成績票と団体別成績票を発行し、学校を通して電子データにより返却して

するよう、以下の取組例も参考にするとともに、学校現場のニーズも十分に踏まえつつ、結果提供について、不断の改善に努めることが望ましい。

特に、新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、学習内容の定着度を正答状況やスコア等によって示すにとどまらず、全体及び領域等毎の「～できる」の記述文による評価を示すなどの工夫を検討することが望ましい。その際、可能な限り学習指導要領に沿った評価を行うことが望ましい。

また、「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」などの観点別の評価を実施する場合には、各設問が、新学習指導要領の指導事項に記載されている「知識及び技能」・「思考力、判断力、表現力等」のいずれを問うているのかの基準・考え方が分からなければ、当該評価が信頼に足るものなのかを判断し得ないことから、学校現場に何らかの形で判断材料を提供することが望ましい。

います。

・個別成績票には、受検者個人の総合点、WEB分析の総点、項目別診断の総点と、それらに対するコメントを総評として記述文で示します。また、指導者が選択した診断項目のWEB分析及び項目別診断の得点を一覧表とレーダーチャートで提示し、定着した項目、課題が見られる項目がわかりやすくなっています。さらに、診断項目の下位にある学習項目を細分化した学習要素（それぞれの学習項目の問題を解くために必要な内容を要素として分類したもの）に対する得点とコメントを提示します。コメントは記述文で示され、定着した内容や課題が多くみられた内容、復習のポイントが分かりやすくなっています。

・誤答類型に基づいた学習のアドバイスはしていません。今後の検討課題とします。

・団体別成績票は、クラスごとや学年ごとなど実施校側で定めたグループごとの成績を提供することができます。学習項目の平均や学習達成度、受検者の得点の分布などをグラフ表示します。また、総合評価で、団体の傾向、課題が多くみられた分野、授業改善のポイントについて記述文で評価を示し、診断実施後の指導に役立てることができます。

・教材については、予習用と復習用のものが考えられます。

数検スコア基礎診断には、授業の予習復習のための教材としてWEB分析が組み込まれています。また、項目別診断を実施したあとの復習用の教材としては、弊会で発行している「要点整理」シリーズの問題集が活用できます。

・団体の経年変化を示すデータや加工可能な形での結果データについては、現在のシステムでは構築されていないので提供できません。今後の検討課題とします。

・解答類型に基づいた指導のアドバイスはしていません。また、結果に関する分析会は実施していません。これらについては、誤答のデータが集まり次第

	<p>分析して、誤答の傾向を公開するなど事後の授業改善に役立てることができるような方法を検討します。</p>
<p>高校生の基礎学力の定着を目的とする基礎診断制度の趣旨に照らすと、生徒の学力の推移を可能な限り正確に把握することができる必要がある。このため、単に経験則によるのではなく、統計的指標などを用いて各回の試験で難易度が安定しているか否か（信頼性）の検証や測定内容の妥当性をテスト理論の観点から行うなど、不断の検証・改善に努めることが望ましい。</p> <p>できるだけ多くの生徒が受検しやすくなるよう、基礎診断として求められる要件や、有することが望ましい機能とこれらに係る経費とのバランスを踏まえながら、受検料についてできるだけ低廉な価格設定とすることに加え、経済的に困難な事情にある生徒への配慮を行うことが望ましい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習項目を細分化した学習要素を用いて絶対評価で判定する形式をとっています。問題ごとに関連する学習要素に重み付けをして登録しています。また1つの学習要素は複数の学習項目に属します。そのため、テストごとの評価のぶれは最小限に抑えられています。 ・登録する問題を増やし、そこから問題を任意に抽出して診断テストを構成することにより、更に信頼性が高いツールとして仕上げていく予定です。 ・団体ごとに申し込み人数の1割にあたるIDをサンプルとして無償で配付しますので、経済的に困難な事情がある生徒等に対して、学校の配慮で自由に活用することができます。

「高校生のための学びの基礎診断」認定にあたっての指摘事項」に対する回答

団体名：株式会社Z会ソリューションズ
測定ツール名：英語 CAN-DO テスト レベル2・3

指摘事項	対応状況
<p>新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、出題内容・形式を考えるにあたっては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領との関連にも留意しつつ、どのような資質・能力を測定しようとするのか ・その資質・能力を測定するには、どのような出題内容・方法が適切か <p>を明確にしなが、検討することが望ましい。</p> <p>また、これらの観点での事後検証を行う際には、学校現場の意見も十分に踏まえて行うことが望ましい。</p>	<p>『英語 CAN-DO テスト』は、各問題に「CAN-DO リスト」に基づいた「タスク」「テキスト」「条件」が設定されており、CAN-DO の示している「できること」がどのくらい、どの程度できるのかを測定できるテストです。また、その測定にあたっての出題内容・方法については、CEFR-J の開発者である投野由紀夫先生（東京外国語大学教授）を監修者にお迎えし、学校現場のご意見も十分に踏まえながら、その妥当性を検証しています。</p>
<p>診断結果によって学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資するよう、以下の取組例も参考にするとともに、学校現場のニーズも十分に踏まえつつ、結果提供について、不断の改善に努めることが望ましい。</p> <p>特に、新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、学習内容の定着度を正答状況やスコア等によって示すにとどまらず、全体及び領域等毎の「~できる」の記述文による評価を示すなどの工夫を検討することが望ましい。その際、可能な限り学習指導要領に沿った評価を行うことが望ましい。</p> <p>また、「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」などの観点別の評価を実施する場合には、各設問が、</p>	<p>『英語 CAN-DO テスト』では、技能ごと、英語で何ができるようになっているか、次のレベルではどこを伸ばすとよいかをフィードバックされます。学習指導要領でも示されている CAN-DO 視点でのフィードバックのため、授業の理解度が把握しやすく、今後の対策も行いやすい内容です。</p> <p>《結果提供の具体的な内容》</p> <p>【受検者個人】 個別成績表を提供。 総合スコア／総合評価（CEFR-J レベル）／技能別スコア／技能別評価（CEFR-J レベル）／スピーキング、ライティングの観点別評価／「~できる」の記述文による学習アドバイス／成績推移</p> <p>【学校等】</p>

<p>新学習指導要領の指導事項に記載されている「知識及び技能」・「思考力、判断力、表現力等」のいずれを問うているのかの基準・考え方が分からなければ、当該評価が信頼に足るものなのかを判断し得ないことから、学校現場に何らかの形で判断材料を提供することが望ましい。</p>	<p>成績一覧のエクセルデータ、団体全体での成績傾向などをまとめた報告書を提供。 学級・学年別などの概況・分析結果（平均点、得点分布、相関関係など）、課題が多く見られた分野、経年変化など</p>
<p>《試験内容の不断の検証》 高校生の基礎学力の定着を目的とする基礎診断制度の趣旨に照らすと、生徒の学力の推移を可能な限り正確に把握することができる必要がある。このため、単に経験則によるのではなく、統計的指標などを用いて各回の試験で難易度が安定しているか否か（信頼性）の検証や測定内容の妥当性をテスト理論の観点から行うなど、不断の検証・改善に努めることが望ましい。</p> <p>《低廉な受検料》 できるだけ多くの生徒が受検しやすくなるよう、基礎診断として求められる要件や、有することが望ましい機能とこれらに係る経費とのバランスを踏まえながら、受検料についてできるだけ低廉な価格設定とすることに加え、経済的に困難な事情にある生徒への配慮を行うことが望ましい。</p>	<p>《試験内容の不断の検証》 『英語 CAN-DO テスト』は、モニター試験を通して、各技能、各問題項目の難易度を設定しています。また、リスニング、リーディングは IRT（Item Response Theory：項目応答理論）といわれる統計処理を行ってスコアを算出します。複数回・複数レベルのテストを受検しても同じ指標でスコアを比べることができます。</p> <p>《低廉な受検料》 『英語 CAN-DO テスト』は下記の価格でご受験いただけるため、日常の学習の指針にお使いいただけます。</p> <p>【CBT（全技能）】団体：3,900円（税抜）／一般：4,680円（税抜） 【PBT（S以外）+CBT（S）】団体：4,300円（税込） ※一般受検はナシ</p>

「高校生のための学びの基礎診断」認定にあたっての指摘事項」に対する回答

団 体 名：株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
測定ツール名：スタディサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～

指摘事項	対応状況
<p>新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、出題内容・形式を考えるにあたっては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領との関連にも留意しつつ、どのような資質・能力を測定しようとするのか ・その資質・能力を測定するには、どのような出題内容・方法が適切かを明確にしなが、検討することが望ましい。 <p>また、これらの観点での事後検証を行う際には、学校現場の意見も十分に踏まえて行うことが望ましい。</p>	<p>各問題について、「知識・技能」「思考力・判断力」のどちらを問うているか明確に定めて作問しています。採点基準で明示しているため、生徒は上記の資質・能力がどの程度身につけているかを知ることができます。また、「表現力」をもって上記2つの資質・能力を書き表すという考えをとって作問していますので、「答えを持っているけれども、解答として書き表すことが出なかった部分」を表現力が足りない部分として生徒に示しています。</p>
<p>2021年度までの間の国語、数学及び英語の3教科セットの測定ツールにおける英語の「話す」技能に関しては、測定することに代えて問題、解答例及び採点基準を提供することとしても差し支えないこととしているが、英語4技能のバランスのとれた育成・評価を促進する観点からは、将来的な4技能測定機能の具備に向けた「話す」技能測定に関する技術開発や環境整備を行うことが望ましい。</p>	<p>「話す」技能に関して、19年度はツールのご提供に留まりました。</p>
<p>学校における「話す」技能に関する試験の実効性を高める観点からは、問題、解答例及び採点基準に留まらず、実施マニュアル（試験の運営例など）、得点ごとの応用例、採点研修用ツール等が提供されることが望ましい。</p>	<p>「話す」技能の測定ツールとして、先生用実施マニュアル・生徒用実施マニュアル・先生用問題シート・生徒用問題シート・採点基準と解答例、得点ごとの応答例・生徒用解答例・成績表をご提供いたしました。</p>
<p>出題内容・形式について、複数の審査員から、測定しようとする資質・能力を明確にしてから、試験の出題内容を設定しているというよりは、既存の試験問題を転用しており、学習指導要領を十分に踏まえたものとなっていないのではないか等の厳しい指摘があった。</p> <p>この指摘を踏まえ、学習指導要領の趣旨や高大接続改革の方向性に適った出題内容・形式となるよう強く望む。</p> <p>なお、学習指導要領で育成しようとする資質・能力や学習指導要領の関連項目を明確にしつつ設計された試験としては、大学入学共通テストの試行調査</p>	<p>出題内容・形式については、共通テスト試行調査（プレテスト）の出題内容を参考に作問しています。国語では、複数の資料から解答する問題、イラストを見て解答する問題を導入しています。数学では、共通テストプレテストにもありましたが、日常の広い話題から数学の知識を使って問題を解決する場面を設定して解答させる問題、教室など学校の一場面から切り出した状況設定での作問、また、あえて間違った発言を言う生徒を設定し、その間違いを見つけさせるなどの工夫もしています。英語では、全て日本語を介さず、英語の問いを英語で解答する問題にしています。</p>

<p>や、学校段階は異なるものの、全国学力・学習状況調査があり、これらの出題内容等も参考にすることが考えられる。</p>	
<p>英語の出題内容について、複数の審査員から、例えば、単純な英文和訳・和文英訳の問題や文章等の理解を日本語の記述式で問う問題等が散見されるなど、英語単教科の測定ツールに比べて、学習指導要領が求める、4技能を測定するツールとしては不十分ではないか、英語教育改革の方向性を十分に踏まえたものとなっていないのではないかと指摘があった。受検者層の学力等も踏まえつつ、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて」英語で表現する力を測定する問題の工夫や、複数の技能を活用する問題など、新学習指導要領が進めようとしている高等学校及び中学校における指導の改善の方向性を踏まえた出題内容の改善を望む。</p>	<p>単純な英文和訳・和文英訳の問題や、文章などの理解を日本語の記述式で問う問題等は一切出題しておりません。</p>
<p>診断結果によって学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資するよう、以下の取組例も参考にするとともに、学校現場のニーズも十分に踏まえつつ、結果提供について、不断の改善に努めることが望ましい。</p> <p>特に、新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、学習内容の定着度合いを正答状況やスコア等によって示すにとどまらず、全体及び領域等毎の「～できる」の記述文による評価を示すなどの工夫を検討することが望ましい。その際、可能な限り学習指導要領に沿った評価を行うことが望ましい。</p> <p>また、「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」などの観点別の評価を実施する場合には、各設問が、新学習指導要領の指導事項に記載されている「知識及び技能」・「思考力、判断力、表現力等」のいずれを問っているのかの基準・考え方が分からなければ、当該評価が信頼に足るものなのかを判断し得ないことから、学校現場に何らかの形で判断材料を提供することが望ましい。</p>	<p>結果提供の具体的な内容について、受検者個人に対しては、学校を通じた紙媒体にて、学習内容の定着状況、スコアに加え、誤答に対応した学び直し用講義動画。また、全問題に対応した解説動画を提供いたしました。</p> <p>学校に対しては、紙媒体、学校専用WEBサイトを通し、学級・学年別の概況・分析結果（平均点、得点分布、課題が多く見られた分野、経年変化など）、設問に対しての事後指導用のアドバイス、指導提案や、生徒向けに配信ができる復習問題・講義動画などを提供いたしました。また、結果に関する分析会の実施も行いました。</p> <p>観点別評価については、各問題について、問うている資質・能力を明確に定めて作問しています。また、各資質・能力を各教科でどのように定義しているかを明確に示しております。</p> <p>学校向け事後指導用アドバイス資料に掲載している、19年度実施分で作成した英数国の各資質・能力別の定義を下記に転載いたします。</p> <p>英語 <思考力・判断力とは> 英文や図表を読み、情報を整理しながら概要や要点を把握し、得られた情報を統合するなどして活用する力。 <表現力とは> 自分の考えや主張を適切な語彙、表現、文法等を用いて効果的に伝える力。</p>

数学

<思考力・判断力とは>

事象から得られる情報を整理・統合して問題を設定し、解決の構想を立て、数量化・図形化・記号化などをして数学的に表現し、考察・処理して結果を得、その結果に基づきさらに推論したり傾向や可能性を判断したりすること。

<表現力とは>

数学的な過程や結果を他者にわかるように伝える力

国語

<思考力・判断力とは>

- ・文章や図表などの情報を整理し、解釈する力。
- ・得た情報をもとに、物事を推し量ったり予測したりする力。
- ・得た情報をもとに、立場や根拠を明確にしながらか、論理的に思考する力。
- ・与えられた文章や図表等の中から情報を収集したり取り出したりする力。
- ・目的に応じて必要な情報を見つけ出して文章や図表等の情報と統合し、比較したり関連付けたりする力。

・上記のプロセスを経て、問題解決のための方法や計画（自分の考え）をまとめる力。

<表現力とは>

- ・文章や図表等の情報を要約したり、一般化したりする力。
- ・受け手の状況をふまえて表現する力。
- ・表現した結果を振り返り、さらに改善する力。
- ・上記「思考力・判断力」の諸項目のプロセスで得た情報を構造化し、目的や意図を明確にし、構成や展開を工夫して表現する力。

基礎診断の認定基準の一つとして、「試験等の結果（正答状況やスコア等）に対する全体及び領域等毎の評価（ルーブリックに基づく段階表示をはじめとした「～できる」の記述文による評価など）の考え方や分析の手法を明らかにしていること」を求めているが、英語の領域等毎の評価としては、4技能のバランスのとれた育成に資するものとするのが望ましい。

2019年度は、小問単位での「～できる」記述分による評価を実施いたしました。が、全体及び領域単位での評価は実施できておりません。

□試験内容の不断の検証□

○高校生の基礎学力の定着を目的とする基礎診断制度の趣旨に照らすと、生徒の学力の推移を可能な限り正確に把握することができる必要がある。このため、単に経験則によるのではなく、統計的指標など

主に定性的な分析をもとに生徒の学力の推移の把握について努めていますが、より積極的な統計的資料の利用・テスト理論の観点からの検証は、他アセスメントにおいて今後検討を進めていきます。

<p>を用いて各回の試験で難易度が安定しているか否か（信頼性）の検証や測定内容の妥当性をテスト理論の観点から行うなど、不断の検証・改善に努めることが望ましい。</p>	
<p>□低廉な受検料□ ○できるだけ多くの生徒が受検しやすくなるよう、基礎診断として求められる要件や、有することが望ましい機能とこれらに係る経費とのバランスを踏まえながら、受検料についてできるだけ低廉な価格設定とすることに加え、経済的に困難な事情にある生徒への配慮を行うことが望ましい。</p>	<p>できうる限りの低廉な価格設定をいたしました。</p>

「高校生のための学びの基礎診断」認定にあたっての指摘事項」に対する回答

団体名：株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
測定ツール名：スタディサプリ 学びの活用力診断～スタンダード～

指摘事項	対応状況
<p>新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、出題内容・形式を考えるにあたっては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領との関連にも留意しつつ、どのような資質・能力を測定しようとするのか ・その資質・能力を測定するには、どのような出題内容・方法が適切かを明確にしなが、検討することが望ましい。 <p>また、これらの観点での事後検証を行う際には、学校現場の意見も十分に踏まえて行うことが望ましい。</p>	<p>各問題について、「知識・技能」「思考力・判断力」のどちらを問うているか明確に定めて作問しています。採点基準で明示しているため、生徒は上記の資質・能力がどの程度身につけているかを知ることができます。また、「表現力」をもって上記2つの資質・能力を書き表すという考えをとって作問していますので、「答えを持っているけれども、解答として書き表すことが出なかった部分」を表現力が足りない部分として生徒に示しています。</p>
<p>2021年度までの間の国語、数学及び英語の3教科セットの測定ツールにおける英語の「話す」技能に関しては、測定することに代えて問題、解答例及び採点基準を提供することとしても差し支えないこととしているが、英語4技能のバランスのとれた育成・評価を促進する観点からは、将来的な4技能測定機能の具備に向けた「話す」技能測定に関する技術開発や環境整備を行うことが望ましい。</p>	<p>「話す」技能に関して、19年度はツールのご提供に留まりました。</p>
<p>学校における「話す」技能に関する試験の実効性を高める観点からは、問題、解答例及び採点基準に留まらず、実施マニュアル（試験の運営例など）、得点ごとの応用例、採点研修用ツール等が提供されることが望ましい。</p>	<p>「話す」技能の測定ツールとして、先生用実施マニュアル・生徒用実施マニュアル・先生用問題シート・生徒用問題シート・採点基準と解答例、得点ごとの応答例・生徒用解答例・成績表をご提供いたしました。</p>
<p>出題内容・形式について、複数の審査員から、測定しようとする資質・能力を明確にしてから、試験の出題内容を設定しているというよりは、既存の試験問題を転用しており、学習指導要領を十分に踏まえたものとなっていないのではないかな等の厳しい指摘があった。</p> <p>この指摘を踏まえ、学習指導要領の趣旨や高大接続改革の方向性に適った出題内容・形式となるよう強く望む。</p> <p>なお、学習指導要領で育成しようとする資質・能力や学習指導要領の関連項目を明確にしつつ設計された試験としては、大学入学共通テストの試行調査</p>	<p>出題内容・形式については、共通テスト試行調査（プレテスト）の出題内容を参考に作問しています。国語では、複数の資料から解答する問題、イラストを見て解答する問題を導入しています。数学では、共通テストプレテストにもありましたが、日常の広い話題から数学の知識を使って問題を解決する場面を設定して解答させる問題、教室など学校の一場面から切り出した状況設定での作問、また、あえて間違った発言を言う生徒を設定し、その間違いを見つけさせるなどの工夫もしています。英語では、全て日本語を介さず、英語の問いを英語で解答する問題にしています。</p>

<p>や、学校段階は異なるものの、全国学力・学習状況調査があり、これらの出題内容等も参考にすることが考えられる。</p>	
<p>英語の出題内容について、複数の審査員から、例えば、単純な英文和訳・和文英訳の問題や文章等の理解を日本語の記述式で問う問題等が散見されるなど、英語単教科の測定ツールに比べて、学習指導要領が求める、4技能を測定するツールとしては不十分ではないか、英語教育改革の方向性を十分に踏まえたものとなっていないのではないかと指摘があった。受検者層の学力等も踏まえつつ、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて」英語で表現する力を測定する問題の工夫や、複数の技能を活用する問題など、新学習指導要領が進めようとしている高等学校及び中学校における指導の改善の方向性を踏まえた出題内容の改善を望む。</p>	<p>単純な英文和訳・和文英訳の問題や、文章などの理解を日本語の記述式で問う問題等は一切出題しておりません。</p>
<p>診断結果によって学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資するよう、以下の取組例も参考にするとともに、学校現場のニーズも十分に踏まえつつ、結果提供について、不断の改善に努めることが望ましい。</p> <p>特に、新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、学習内容の定着度合いを正答状況やスコア等によって示すにとどまらず、全体及び領域等毎の「～できる」の記述文による評価を示すなどの工夫を検討することが望ましい。その際、可能な限り学習指導要領に沿った評価を行うことが望ましい。</p> <p>また、「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」などの観点別の評価を実施する場合には、各設問が、新学習指導要領の指導事項に記載されている「知識及び技能」・「思考力、判断力、表現力等」のいずれを問っているのかの基準・考え方が分からなければ、当該評価が信頼に足るものなのかを判断し得ないことから、学校現場に何らかの形で判断材料を提供することが望ましい。</p>	<p>結果提供の具体的な内容について、受検者個人に対しては、学校を通じた紙媒体にて、学習内容の定着状況、スコアに加え、誤答に対応した学び直し用講義動画。また、全問題に対応した解説動画を提供いたしました。</p> <p>学校に対しては、紙媒体、学校専用WEBサイトを通し、学級・学年別の概況・分析結果（平均点、得点分布、課題が多く見られた分野、経年変化など）、設問に対しての事後指導用のアドバイス、指導提案や、生徒向けに配信ができる復習問題・講義動画などを提供いたしました。また、結果に関する分析会の実施も行いました。</p> <p>観点別評価については、各問題については、問うている資質・能力を明確に定めて作問しています。また、各資質・能力を各教科でどのように定義しているかを明確に示しております。</p> <p>学校向け事後指導用アドバイス資料に掲載している、19年度実施分で作成した英数国の各資質・能力別の定義を下記に転載いたします。</p> <p>英語 <思考力・判断力とは> 英文や図表を読み、情報を整理しながら概要や要点を把握し、得られた情報を統合するなどして活用する力。 <表現力とは> 自分の考えや主張を適切な語彙、表現、文法等を用いて効果的に伝える力。</p> <p>数学</p>

<思考力・判断力とは>

事象から得られる情報を整理・統合して問題を設定し、解決の構想を立て、数量化・図形化・記号化などをして数学的に表現し、考察・処理して結果を得、その結果に基づきさらに推論したり傾向や可能性を判断したりすること。

<表現力とは>

数学的な過程や結果を他者にわかるように伝える力

国語

<思考力・判断力とは>

- ・文章や図表などの情報を整理し、解釈する力。
- ・得た情報をもとに、物事を推し量ったり予測したりする力。
- ・得た情報をもとに、立場や根拠を明確にしながらか、論理的に思考する力。
- ・与えられた文章や図表等の中から情報を収集したり取り出したりする力。
- ・目的に応じて必要な情報を見つけ出して文章や図表等の情報と統合し、比較したり関連付けたりする力。

- ・上記のプロセスを経て、問題解決のための方法や計画（自分の考え）をまとめる力。

<表現力とは>

- ・文章や図表等の情報を要約したり、一般化したりする力。
- ・受け手の状況をふまえて表現する力。
- ・表現した結果を振り返り、さらに改善する力。
- ・上記「思考力・判断力」の諸項目のプロセスで得た情報を構造化し、目的や意図を明確にし、構成や展開を工夫して表現する力。

基礎診断の認定基準の一つとして、「試験等の結果（正答状況やスコア等）に対する全体及び領域等毎の評価（ルーブリックに基づく段階表示をはじめとした「～できる」の記述文による評価など）の考え方や分析の手法を明らかにしていること」を求めているが、英語の領域等毎の評価としては、4技能のバランスのとれた育成に資するものとするのが望ましい。

2019年度は、小問単位での「～できる」記述分による評価を実施いたしましたが、全体及び領域単位での評価は実施できておりません。

高校生の基礎学力の定着を目的とする基礎診断制度の趣旨に照らすと、生徒の学力の推移を可能な限り正確に把握することができる必要がある。このため、単に経験則によるのではなく、統計的指標などを用いて各回の試験で難易度が安定しているか否か（信頼性）の検証や測定内容の妥当性をテスト理論の観点から行うなど、不断の検証・改善に努めるこ

主に定性的な分析をもとに生徒の学力の推移の把握について努めていますが、より積極的な統計的資料の利用・テスト理論の観点からの検証は、他アセスメントにおいて今後検討を進めていきます。

<p>とが望ましい。</p>	
<p>できるだけ多くの生徒が受検しやすくなるよう、基礎診断として求められる要件や、有することが望ましい機能とこれらに係る経費とのバランスを踏まえながら、受検料についてできるだけ低廉な価格設定とすることに加え、経済的に困難な事情にある生徒への配慮を行うことが望ましい。</p>	<p>できうる限りの低廉な価格設定をいたしました。</p>

「高校生のための学びの基礎診断」認定にあたっての指摘事項」に対する回答

団 体 名 : 株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名: 進路マップ基礎力診断テスト

指摘事項	対応状況
<p>新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、出題内容・形式を考えるにあたっては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領との関連にも留意しつつ、どのような資質・能力を測定しようとするのか ・その資質・能力を測定するには、どのような出題内容・方法が適切か <p>を明確にしなが、検討することが望ましい。</p> <p>また、これらの観点での事後検証を行う際には、学校現場の意見も十分に踏まえて行うことが望ましい。</p>	<p>出題内容・形式を考えるにあたり、「どのような力」を測定するものなのかを定義し、出題設計を行っております</p> <p>事後の検証についても学校現場にもご意見をいただきながら行っております</p>
<p>2021年度までの間の国語、数学及び英語の3教科セットの測定ツールにおける英語の「話す」技能に関しては、測定することに代えて問題、解答例及び採点基準を提供することとしても差し支えないこととしているが、英語4技能のバランスのとれた育成・評価を促進する観点からは、将来的な4技能測定機能の具備に向けた「話す」技能測定に関する技術開発や環境整備を行うことが望ましい。</p>	<p>「話す」技能測定において USB を用いた技術開発を行い、サービスとして提供しております</p> <p>更に技術開発や環境整備を行うことで、より安定的なサービス提供を実現して参ります</p>
<p>学校における「話す」技能に関する試験の実効性を高める観点からは、問題、解答例及び採点基準に留まらず、実施マニュアル（試験の運営例など）、得点ごとの応答例、採点研修用ツール等が提供されることが望ましい。</p>	<p>実施マニュアルについては提供しております</p> <p>また、学校における「話す」技能の試験を実施した学校については、要望があればツールを使って分析できるものを提供しております</p>
<p>出題内容・形式について、複数の審査員から、測定しようとする資質・能力を明確にしてから、試験の出題内容を設定しているというよりは、既存の試験問題を転用しており、学習指導要領を十分に踏まえたも</p>	<p>本テストを長年にわたってご採用いただいている学校様が多くいらっしゃることもあり、これまでの既存の問題を残しているのが現状ですが、次期学習指導要領に沿った出題への変更に向けて研究を進めて</p>

<p>のとなっていないのではないか等の厳しい指摘があった。</p> <p>この指摘を踏まえ、学習指導要領の趣旨や高大接続改革の方向性に適った出題内容・形式となるよう強く望む。</p> <p>なお、学習指導要領で育成しようとする資質・能力や学習指導要領の関連項目を明確にしつつ設計された試験としては、大学入学共通テストの試行調査や、学校段階は異なるものの、全国学力・学習状況調査があり、これらの出題内容等も参考にすることが考えられる。</p>	<p>おります</p>
<p>英語の出題内容について、複数の審査員から、英語単教科の測定ツールに比べて、学習指導要領が求める、4技能を測定するツールとしては不十分ではないか、英語教育改革の方向性を十分に踏まえたものとなっていないのではないかと指摘があった。受検者層の学力等も踏まえつつ、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて」英語で表現する力を測定する問題の工夫や、複数の技能を活用する問題など、新学習指導要領が進めようとしている高等学校及び中学校における指導の改善の方向性を踏まえた出題内容の改善を望む。</p>	<p>上記同様ですが、本テストを長年にわたってご採用いただいている学校様が多くいらっしゃることもあり、これまでの既存の問題を残しているのが現状ですが、次期学習指導要領に沿った出題への変更に向けて研究を進めております</p>
<p>診断結果によって学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資するよう、以下の取組例（例は省略）も参考にするとともに、学校現場のニーズも十分に踏まえつつ、結果提供について、不断の改善に努めることが望ましい。</p> <p>特に、新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、学習内容の定着度合いを正答状況やスコア等によって示すにとどまらず、全体及び領域等毎の「～できる」の記述文による評価を示すなどの工夫を検討することが望ましい。</p> <p>その際、可能な限り学習指導要領に沿った評価を行うことが望ましい。</p> <p>また、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」な</p>	<p>学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点の重要性を鑑み、解答解説の冊子で解答に必要な考え方を明示しています</p> <p>また、問うている学力要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」）については、受検校教員に提供しております</p>

<p>どの観点別の評価を実施する場合には、各設問が、新学習指導要領の指導事項に記載されている「知識及び技能」・「思考力、判断力、表現力等」のいずれを問うているのかの基準・考え方が分からなければ、当該評価が信頼に足るものなのかを判断し得ないことから、学校現場に何らかの形で判断材料を提供することが望ましい。</p>	
<p>複数の審査員から、結果提供が偏差値等の集団準拠評価に偏重しており、従来の大学受験に対応した模擬試験と大差なく、基礎診断制度の趣旨とは異なるのではないか等の厳しい指摘があった。</p> <p>この指摘を踏まえ、学習指導要領の趣旨や高大接続改革の方向性に適い、かつ授業改善や学習意欲の向上等に十分に資する結果提供となるよう、検討することが望ましい。</p> <p>また、集団準拠評価に基づき大学入学者選抜と関連づけた情報提供は基礎診断の認定の対象外であり、基礎診断制度の趣旨について、生徒や学校に対して誤解を生まないよう十分留意されたい。</p>	<p>学習指導要領の趣旨や高大接続改革の方向性に適い、かつ授業改善や学習意欲の向上等に十分に資する結果提供となるよう継続検討を行って参ります</p>
<p>基礎診断の認定基準の一つとして、「試験等の結果（正答状況やスコア等）に対する全体及び領域等毎の評価（ループリックに基づく段階表示をはじめとした「～できる」の記述文による評価など）の考え方と分析の手法を明らかにしていること」を求めているが、英語の領域等毎の評価としては、4技能のバランスのとれた育成に資するものとするのが望ましい。</p>	<p>英語4技能については、「読む」「聞く」「書く」に加えて「話す」技能についても試験実施および弊社での採点・評価、結果返却を行っております</p> <p>各技能について、得点率をもとに段階別（4段階）で評価を行うことで4技能バランスのとれた育成に資するものと考えております</p>
<p>高校生の基礎学力の定着を目的とする基礎診断制度の趣旨に照らすと、生徒の学力の推移を可能な限り正確に把握することができる必要がある。このため、単に経験則によるのではなく、統計的指標などを用いて各回の試験で難易度が安定しているか否か（信頼性）の検証や測定内容の妥当性をテスト理論の観点から行うなど、不断の検証・改善に努めることが望ましい。</p>	<p>実施後は、設問別・成績層別の結果データの詳細な分析も行っております</p> <p>今後も不断の検証・改善に努めて参ります</p>

<p>できるだけ多くの生徒が受検しやすくなるよう、基礎診断として求められる要件や、有することが望ましい機能とこれらに係る経費とのバランスを踏まえながら、受検料についてできるだけ低廉な価格設定とすることに加え、経済的に困難な事情にある生徒への配慮を行うことが望ましい。</p>	<p>広く受検いただきやすい料金設定を継続検討して参ります</p>
---	-----------------------------------

「高校生のための学びの基礎診断」認定にあたっての指摘事項」に対する回答

団 体 名 : 株式会社ベネッセコーポレーション
測定ツール名 : 進路マップ実力診断テスト

指摘事項	対応状況
<p>新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、出題内容・形式を考えるにあたっては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領との関連にも留意しつつ、どのような資質・能力を測定しようとするのか ・その資質・能力を測定するには、どのような出題内容・方法が適切か <p>を明確にしなが、検討することが望ましい。 また、これらの観点での事後検証を行う際には、学校現場の意見も十分に踏まえて行うことが望ましい。</p>	<p>出題内容・形式を考えるにあたり、「どのような力」を測定するものなのかを定義し、出題設計を行っております</p> <p>事後の検証についても学校現場にもご意見をいただきながら行っております</p>
<p>2021年度までの間の国語、数学及び英語の3教科セットの測定ツールにおける英語の「話す」技能に関しては、測定することに代えて問題、解答例及び採点基準を提供することとしても差し支えないこととしているが、英語4技能のバランスのとれた育成・評価を促進する観点からは、将来的な4技能測定機能の具備に向けた「話す」技能測定に関する技術開発や環境整備を行うことが望ましい。</p>	<p>「話す」技能測定において USB を用いた技術開発を行い、サービスとして提供しております</p> <p>更に技術開発や環境整備を行うことで、より安定的なサービス提供を実現して参ります</p>
<p>学校における「話す」技能に関する試験の実効性を高める観点からは、問題、解答例及び採点基準に留まらず、実施マニュアル（試験の運営例など）、得点ごとの応答例、採点研修用ツール等が提供されることが望ましい。</p>	<p>実施マニュアルについては提供しております</p> <p>また、学校における「話す」技能の試験を実施した学校については、要望があればツールを使って分析できるものを提供しております</p>
<p>出題内容・形式について、複数の審査員から、測定しようとする資質・能力を明確にしてから、試験の出題内容を設定しているというよりは、既存の試験問題を転用しており、学習指導要領を十分に踏まえたも</p>	<p>本テストを長年にわたってご採用いただいている学校様が多くいらっしゃることもあり、これまでの既存の問題を残しているのが現状ですが、大学入学共通テスト試行調査の問題等を参考にしながら、新しい傾向</p>

<p>のとなっていないのではないか等の厳しい指摘があった。</p> <p>この指摘を踏まえ、学習指導要領の趣旨や高大接続改革の方向性に適った出題内容・形式となるよう強く望む。</p> <p>なお、学習指導要領で育成しようとする資質・能力や学習指導要領の関連項目を明確にしつつ設計された試験としては、大学入学共通テストの試行調査や、学校段階は異なるものの、全国学力・学習状況調査があり、これらの出題内容等も参考にすることが考えられる。</p>	<p>の問いも順次含めるようにしています</p> <p>次期学習指導要領に沿った出題への変更に向けて研究を進めております</p>
<p>英語の出題内容について、複数の審査員から、例えば、単純な英文和訳・和文英訳の問題や文章等の理解を日本語で問う問題等が散見されるなど、英語単教科の測定ツールに比べて、学習指導要領が求める、4技能を測定するツールとしては不十分ではないか、英語教育改革の方向性を十分に踏まえたものとなっていないのではないかと指摘があった。受検者層の学力等も踏まえつつ、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて」英語で表現する力を測定する問題の工夫や、複数の技能を活用する問題など、新学習指導要領が進めようとしている高等学校及び中学校における指導の改善の方向性を踏まえた出題内容の改善を望む。</p>	<p>上記同様ですが、本テストを長年にわたってご採用いただいている学校様が多くいらっしゃることもあり、これまでの既存の問題を残しているのが現状ですが、大学入学共通テスト試行調査の問題等を参考にしながら、新しい傾向の問いも順次含めるようにしています</p> <p>次期学習指導要領に沿った出題への変更に向けて研究を進めております</p>
<p>診断結果によって学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資するよう、以下の取組例（例は省略）も参考にするとともに、学校現場のニーズも十分に踏まえつつ、結果提供について、不断の改善に努めることが望ましい。</p> <p>特に、新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、学習内容の定着度合いを正答状況やスコア等によって示すにとどまらず、全体及び領域等毎の「～できる」の記述文による評価を示すなどの工夫を検討することが望ましい。</p> <p>その際、可能な限り学習指導要領に沿った評価を行</p>	<p>学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点の重要性を鑑み、解答解説の冊子で解答に必要な考え方を明示しています</p> <p>また、問うている学力要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」）については、設問ごとに明らかにし、受検校教員に提供しております</p>

<p>うことが望ましい。</p> <p>また、「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」などの観点別の評価を実施する場合には、各設問が、新学習指導要領の指導事項に記載されている「知識及び技能」・「思考力、判断力、表現力等」のいずれを問うているのかの基準・考え方が分からなければ、当該評価が信頼に足るものなのかを判断し得ないことから、学校現場に何らかの形で判断材料を提供することが望ましい。</p>	
<p>複数の審査員から、結果提供が偏差値等の集団準拠評価に偏重しており、従来の大学受験に対応した模擬試験と大差なく、基礎診断制度の趣旨とは異なるのではないかな等の厳しい指摘があった。</p> <p>この指摘を踏まえ、学習指導要領の趣旨や高大接続改革の方向性に適い、かつ授業改善や学習意欲の向上等に十分に資する結果提供となるよう、検討することが望ましい。</p> <p>また、集団準拠評価に基づき大学入学者選抜と関連づけた情報提供は基礎診断の認定の対象外であり、基礎診断制度の趣旨について、生徒や学校に対して誤解を生まないよう十分留意されたい。</p>	<p>学習指導要領の趣旨や高大接続改革の方向性に適い、かつ授業改善や学習意欲の向上等に十分に資する結果提供となるよう継続検討を行って参ります</p> <p>2020 年度より学びの基礎診断実施高校について、大学入学者選抜と関連付けた情報を提供するか否かを学校の意思で選択できるよう改訂を行っております</p>
<p>基礎診断の認定基準の一つとして、「試験等の結果（正答状況やスコア等）に対する全体及び領域等毎の評価（ループリックに基づく段階表示をはじめとした「～できる」の記述文による評価など）の考え方と分析の手法を明らかにしていること」を求めているが、英語の領域等毎の評価としては、4技能のバランスのとれた育成に資するものとするのが望ましい。</p>	<p>英語4技能については、「読む」「聞く」「書く」に加えて「話す」技能についても試験実施および弊社での採点・評価、結果返却を行っております</p> <p>各技能について、得点率をもとに段階別（4段階）で評価を行うことで4技能バランスのとれた育成に資するものと考えております</p>
<p>高校生の基礎学力の定着を目的とする基礎診断制度の趣旨に照らすと、生徒の学力の推移を可能な限り正確に把握することができる必要がある。このため、単に経験則によるのではなく、統計的指標などを用いて各回の試験で難易度が安定しているか否か（信頼性）の検証や測定内容の妥当性をテスト理論の観点から行うなど、不断の検証・改善に努めることが望</p>	<p>実施後は、設問別・成績層別の結果データの詳細な分析も行っております</p> <p>今後も不断の検証・改善に努めてまいります</p>

ましい。	
できるだけ多くの生徒が受検しやすくなるよう、基礎診断として求められる要件や、有することが望ましい機能とこれらに係る経費とのバランスを踏まえながら、受検料についてできるだけ低廉な価格設定とすることに加え、経済的に困難な事情にある生徒への配慮を行うことが望ましい。	広く受検いただきやすい料金設定を継続検討して参ります

「高校生のための学びの基礎診断」認定にあたっての指摘事項」に対する回答

団 体 名 : 株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名: スタディーサポート α タイプ、 β タイプ、 θ タイプ

指摘事項	対応状況
<p>新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、出題内容・形式を考えるにあたっては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領との関連にも留意しつつ、どのような資質・能力を測定しようとするのか ・その資質・能力を測定するには、どのような出題内容・方法が適切かを明確にしながら、検討することが望ましい。 <p>また、これらの観点での事後検証を行う際には、学校現場の意見も十分に踏まえて行うことが望ましい。</p>	<p>出題内容・形式を考えるにあたり、「どのような力」を測定するものなのかを定義し、出題設計を行っております</p> <p>事後の検証についても学校現場にもご意見をいただきながら行っております</p>
<p>2021年度までの間の国語、数学及び英語の3教科セットの測定ツールにおける英語の「話す」技能に関しては、測定することに代えて問題、解答例及び採点基準を提供することとしても差し支えないこととしているが、英語4技能のバランスのとれた育成・評価を促進する観点からは、将来的な4技能測定機能の具備に向けた「話す」技能測定に関する技術開発や環境整備を行うことが望ましい。</p>	<p>英語の「話す」技能測定について、測定に代えて問題、採点基準を提供しております</p> <p>技術開発や環境整備については継続検討させていただきます</p>
<p>学校における「話す」技能に関する試験の実効性を高める観点からは、問題解答例及び採点基準に留まらず、実施マニュアル（試験の運営例など）、得点ごとの応答例、採点研修用ツール等が提供されることが望ましい。</p>	<p>実施マニュアルについては提供しております</p> <p>また、学校における「話す」技能の試験を実施した学校については、要望があればツールを使って分析できるものを提供しております</p>
<p>出題内容・形式について、複数の審査員から、測定しようとする資質・能力を明確にしてから、試験の出題内容を設定しているというよりは、既存の試験問題を転用しており、学習指導要領を十分に踏まえたも</p>	<p>本テストを長年にわたってご採用いただいている学校様が多くいらっしゃることもあり、これまでの既存の問題を残しているのが現状ですが、大学入学共通テスト試行調査の問題等を参考にしながら、新しい傾向</p>

<p>のとなっていないのではないか等の厳しい指摘があった。</p> <p>この指摘を踏まえ、学習指導要領の趣旨や高大接続改革の方向性に適った出題内容・形式となるよう強く望む。</p> <p>なお、学習指導要領で育成しようとする資質・能力や学習指導要領の関連項目を明確にしつつ設計された試験としては、大学入学共通テストの試行調査や、学校段階は異なるものの、全国学力・学習状況調査があり、これらの出題内容等も参考にすることが考えられる。</p>	<p>の問いも順次含めるようにしています</p> <p>次期学習指導要領に沿った出題への変更に向けて研究を進めております</p>
<p>英語の出題内容について、複数の審査員から、英語単教科の測定ツールに比べて、学習指導要領が求める、4技能を測定するツールとしては不十分ではないか、英語教育改革の方向性を十分に踏まえたものとなっていないのではないかと指摘があった。受検者層の学力等も踏まえつつ、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて」英語で表現する力を測定する問題の工夫や、複数の技能を活用する問題など、新学習指導要領が進めようとしている高等学校及び中学校における指導の改善の方向性を踏まえた出題内容の改善を望む。</p>	<p>上記同様ですが、本テストを長年にわたってご採用いただいている学校様が多くいらっしゃることもあり、これまでの既存の問題を残しているのが現状ですが、大学入学共通テスト試行調査の問題等を参考にしながら、新しい傾向の問いも順次含めるようにしています</p> <p>次期学習指導要領に沿った出題への変更に向けて研究を進めております</p>
<p>診断結果によって学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資するよう、以下の取組例（例は省略）も参考にするとともに、学校現場のニーズも十分に踏まえつつ、結果提供について、不断の改善に努めることが望ましい。</p> <p>特に、新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、学習内容の定着度合いを正答状況やスコア等によって示すにとどまらず、全体及び領域等毎の「～できる」の記述文による評価を示すなどの工夫を検討することが望ましい。</p> <p>その際、可能な限り学習指導要領に沿った評価を行うことが望ましい。</p> <p>また、「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」な</p>	<p>学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点の重要性を鑑み、解答解説の冊子で解答に必要な考え方を明示しています</p>

<p>どの観点別の評価を実施する場合には、各設問が、新学習指導要領の指導事項に記載されている「知識及び技能」・「思考力、判断力、表現力等」のいずれを問うているのかの基準・考え方が分からなければ、当該評価が信頼に足るものなのかを判断し得ないことから、学校現場に何らかの形で判断材料を提供することが望ましい。</p>	
<p>複数の審査員から、結果提供が偏差値等の集団準拠評価に偏重しており、従来の大学受験に対応した模擬試験と大差なく、基礎診断制度の趣旨とは異なるのではないかと等の厳しい指摘があった。</p> <p>この指摘を踏まえ、学習指導要領の趣旨や高大接続改革の方向性に適い、かつ授業改善や学習意欲の向上等に十分に資する結果提供となるよう、検討することが望ましい。</p> <p>また、集団準拠評価に基づき大学入学者選抜と関連づけた情報提供は基礎診断の認定の対象外であり、基礎診断制度の趣旨について、生徒や学校に対して誤解を生まないよう十分留意されたい。</p>	<p>学習指導要領の趣旨や高大接続改革の方向性に適い、かつ授業改善や学習意欲の向上等に十分に資する結果提供となるよう継続検討を行って参ります</p> <p>2020 年度より学びの基礎診断実施高校について、大学入学者選抜と関連付けた情報を提供するか否かを学校的意思で選択できるよう改訂を行っております</p>
<p>基礎診断の認定基準の一つとして、「試験等の結果（正答状況やスコア等）に対する全体及び領域等毎の評価（ルーブリックに基づく段階表示をはじめとした「～できる」の記述文による評価など）の考え方と分析の手法を明らかにしていること」を求めているが、英語の領域等毎の評価としては、4技能のバランスのとれた育成に資するものとするのが望ましい。</p>	<p>英語4技能について、「話す」技能については問題、採点基準の提供をしており、観点別の段階評価、その評価観点を示したものを提供しております</p>
<p>高校生の基礎学力の定着を目的とする基礎診断制度の趣旨に照らすと、生徒の学力の推移を可能な限り正確に把握することができる必要がある。このため、単に経験則によるのではなく、統計的指標などを用いて各回の試験で難易度が安定しているか否か（信頼性）の検証や測定内容の妥当性をテスト理論の観点から行うなど、不断の検証・改善に努めることが望ましい。</p>	<p>実施後は、設問別・成績層別の結果データの詳細な分析も行っております</p> <p>今後も不断の検証・改善に努めて参ります</p>

<p>できるだけ多くの生徒が受検しやすくなるよう、基礎診断として求められる要件や、有することが望ましい機能とこれらに係る経費とのバランスを踏まえながら、受検料についてできるだけ低廉な価格設定とすることに加え、経済的に困難な事情にある生徒への配慮を行うことが望ましい。</p>	<p>広く受検いただきやすい料金設定を継続検討して参ります</p>
---	-----------------------------------

「「高校生のための学びの基礎診断」認定にあたっての指摘事項」に対する回答

団 体 名 : 株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名 : スタディープログラム

指摘事項	対応状況
<p>新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、出題内容・形式を考えるにあたっては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領との関連にも留意しつつ、どのような資質・能力を測定しようとするのか ・その資質・能力を測定するには、どのような出題内容・方法が適切か <p>を明確にしなが、検討することが望ましい。</p> <p>また、これらの観点での事後検証を行う際には、学校現場の意見も十分に踏まえて行うことが望ましい。</p>	<p>出題内容・形式を考えるにあたり、「どのような力」を測定するものなのかを定義し、出題設計を行っております</p> <p>事後の検証についても学校現場にもご意見をいただきながら行っております</p>
<p>2021年度までの間の国語、数学及び英語の3教科セットの測定ツールにおける英語の「話す」技能に関しては、測定することに代えて問題、解答例及び採点基準を提供することとしても差し支えないこととしているが、英語4技能のバランスのとれた育成・評価を促進する観点からは、将来的な4技能測定機能の具備に向けた「話す」技能測定に関する技術開発や環境整備を行うことが望ましい。</p>	<p>英語の「話す」技能測定について、測定に代えて問題、採点基準を提供しております</p> <p>技術開発や環境整備については継続検討させていただきます</p>
<p>学校における「話す」技能に関する試験の実効性を高める観点からは、問題、解答例及び採点基準に留まらず、実施マニュアル（試験の運営例など）、得点ごとの応答例、採点研修用ツール等が提供されることが望ましい。</p>	<p>実施マニュアルについては提供しております</p> <p>また、学校における「話す」技能の試験を実施した学校については、要望があればツールを使って分析できるものを提供しております</p>
<p>出題内容・形式について、複数の審査員から、測定しようとする資質・能力を明確にしてから、試験の出題内容を設定しているというよりは、既存の試験問題を転用しており、学習指導要領を十分に踏まえたも</p>	<p>これまでの既存の問題を残しているのが現状ですが、次期学習指導要領に沿った出題への変更に向けて研究を進めております</p>

<p>のとなっていないのではないか等の厳しい指摘があった。</p> <p>この指摘を踏まえ、学習指導要領の趣旨や高大接続改革の方向性に適った出題内容・形式となるよう強く望む。</p> <p>なお、学習指導要領で育成しようとする資質・能力や学習指導要領の関連項目を明確にしつつ設計された試験としては、大学入学共通テストの試行調査や、学校段階は異なるものの、全国学力・学習状況調査があり、これらの出題内容等も参考にすることが考えられる。</p>	
<p>英語の出題内容について、複数の審査員から、英語単教科の測定ツールに比べて、学習指導要領が求める、4技能を測定するツールとしては不十分ではないか、英語教育改革の方向性を十分に踏まえたものとなっていないのではないかとの指摘があった。受検者層の学力等も踏まえつつ、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて」英語で表現する力を測定する問題の工夫や、複数の技能を活用する問題など、新学習指導要領が進めようとしている高等学校及び中学校における指導の改善の方向性を踏まえた出題内容の改善を望む。</p>	<p>上記同様ですが、これまでの既存の問題を残しているのが現状ですが、次期学習指導要領に沿った出題への変更に向けて研究を進めております</p>
<p>診断結果によって学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資するよう、以下の取組例（例は省略）も参考にするとともに、学校現場のニーズも十分に踏まえつつ、結果提供について、不断の改善に努めることが望ましい。</p> <p>特に、新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、学習内容の定着度合いを正答状況やスコア等によって示すにとどまらず、全体及び領域等毎の「～できる」の記述文による評価を示すなどの工夫を検討することが望ましい。</p> <p>その際、可能な限り学習指導要領に沿った評価を行うことが望ましい。</p> <p>また、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」な</p>	<p>学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点の重要性を鑑み、解答解説の冊子で解答に必要な考え方を明示しています</p>

<p>どの観点別の評価を実施する場合には、各設問が、新学習指導要領の指導事項に記載されている「知識及び技能」・「思考力、判断力、表現力等」のいずれを問うているのかの基準・考え方が分からなければ、当該評価が信頼に足るものなのかを判断し得ないことから、学校現場に何らかの形で判断材料を提供することが望ましい。</p>	
<p>基礎診断の認定基準の一つとして、「試験等の結果（正答状況やスコア等）に対する全体及び領域等毎の評価（ループリックに基づく段階表示をはじめとした「～できる」の記述文による評価など）の考え方と分析の手法を明らかにしていること」を求めているが、英語の領域等毎の評価としては、4技能のバランスのとれた育成に資するものとするのが望ましい。</p>	<p>英語4技能について、「話す」技能については問題、採点基準の提供をしており、観点別の段階評価、その評価観点を示したものを提供しております</p>
<p>高校生の基礎学力の定着を目的とする基礎診断制度の趣旨に照らすと、生徒の学力の推移を可能な限り正確に把握することができる必要がある。このため、単に経験則によるのではなく、統計的指標などを用いて各回の試験で難易度が安定しているか否か（信頼性）の検証や測定内容の妥当性をテスト理論の観点から行うなど、不断の検証・改善に努めることが望ましい。</p>	<p>実施後は、設問別・成績層別の結果データの詳細な分析も行っております 今後も不断の検証・改善に努めてまいります</p>
<p>できるだけ多くの生徒が受検しやすくなるよう、基礎診断として求められる要件や、有することが望ましい機能とこれらに係る経費とのバランスを踏まえながら、受検料についてできるだけ低廉な価格設定とすることに加え、経済的に困難な事情にある生徒への配慮を行うことが望ましい。</p>	<p>広く受検いただきやすい料金設定を継続検討して参ります</p>

「高校生のための学びの基礎診断」認定にあたっての指摘事項」に対する回答

団 体 名 : 株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名: ベネッセ総合学力テスト

指摘事項	対応状況
<p>新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、出題内容・形式を考えるにあたっては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領との関連にも留意しつつ、どのような資質・能力を測定しようとするのか ・その資質・能力を測定するには、どのような出題内容・方法が適切かを明確にしながら、検討することが望ましい。 <p>また、これらの観点での事後検証を行う際には、学校現場の意見も十分に踏まえて行うことが望ましい。</p>	<p>出題内容・形式を考えるにあたり、「どのような力」を測定するものなのかを定義し、出題設計を行っております</p> <p>事後の検証についても学校現場にもご意見をいただきながら行っております</p>
<p>2021年度までの間の国語、数学及び英語の3教科セットの測定ツールにおける英語の「話す」技能に関しては、測定することに代えて問題、解答例及び採点基準を提供することとしても差し支えないこととしているが、英語4技能のバランスのとれた育成・評価を促進する観点からは、将来的な4技能測定機能の具備に向けた「話す」技能測定に関する技術開発や環境整備を行うことが望ましい。</p>	<p>英語の「話す」技能測定について、測定に代えて問題、採点基準を提供しております</p> <p>技術開発や環境整備については継続検討させていただきます</p>
<p>学校における「話す」技能に関する試験の実効性を高める観点からは、問題、解答例及び採点基準に留まらず、実施マニュアル（試験の運営例など）、得点ごとの応答例、採点研修用ツール等が提供されることが望ましい。</p>	<p>実施マニュアルについては提供しております</p> <p>また、学校における「話す」技能の試験を実施した学校については、要望があればツールを使って分析できるものを提供しております</p>
<p>出題内容・形式について、複数の審査員から、測定しようとする資質・能力を明確にしてから、試験の出題内容を設定しているというよりは、既存の試験問題を転用しており、学習指導要領を十分に踏まえたも</p>	<p>本テストを長年にわたってご採用いただいている学校様が多くいらっしゃることもあり、これまでの既存の問題を残しているのが現状ですが、大学入学共通テスト試行調査の問題等を参考にしながら、新しい傾向</p>

<p>のとなっていないのではないか等の厳しい指摘があった。</p> <p>この指摘を踏まえ、学習指導要領の趣旨や高大接続改革の方向性に適った出題内容・形式となるよう強く望む。</p> <p>なお、学習指導要領で育成しようとする資質・能力や学習指導要領の関連項目を明確にしつつ設計された試験としては、大学入学共通テストの試行調査や、学校段階は異なるものの、全国学力・学習状況調査があり、これらの出題内容等も参考にすることが考えられる。</p>	<p>の問いも順次含めるようにしています</p> <p>次期学習指導要領に沿った出題への変更に向けて研究を進めております</p>
<p>英語の出題内容について、複数の審査員から、例えば、文章等の理解を日本語の記述式で問う問題等が散見されるなど、英語単教科の測定ツールに比べて、学習指導要領が求める、4技能を測定するツールとしては不十分ではないか、英語教育改革の方向性を十分に踏まえたものとなっていないのではないかと指摘があった。受検者層の学力等も踏まえつつ、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて」英語で表現する力を測定する問題の工夫や、複数の技能を活用する問題など、新学習指導要領が進めようとしている高等学校及び中学校における指導の改善の方向性を踏まえた出題内容の改善を望む。</p>	<p>上記同様ですが、本テストを長年にわたってご採用いただいている学校様が多くいらっしゃることもあり、これまでの既存の問題を残しているのが現状ですが、大学入学共通テスト試行調査の問題等を参考にしながら、新しい傾向の問いも順次含めるようにしています</p> <p>次期学習指導要領に沿った出題への変更に向けて研究を進めております</p>
<p>診断結果によって学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資するよう、以下の取組例（例は省略）も参考にするとともに、学校現場のニーズも十分に踏まえつつ、結果提供について、不断の改善に努めることが望ましい。</p> <p>特に、新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、学習内容の定着度合いを正答状況やスコア等によって示すにとどまらず、全体及び領域等毎の「～できる」の記述文による評価を示すなどの工夫を検討することが望ましい。</p> <p>その際、可能な限り学習指導要領に沿った評価を行</p>	<p>学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点の重要性を鑑み、解答解説の冊子で解答に必要な考え方を明示しています</p> <p>また、問うている学力要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」）については、設問ごとに明らかにし、受検校教員に提供しております</p>

<p>うことが望ましい。</p> <p>また、「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」などの観点別の評価を実施する場合には、各設問が、新学習指導要領の指導事項に記載されている「知識及び技能」・「思考力、判断力、表現力等」のいずれを問うているのかの基準・考え方が分からなければ、当該評価が信頼に足るものなのかを判断し得ないことから、学校現場に何らかの形で判断材料を提供することが望ましい。</p>	
<p>複数の審査員から、結果提供が偏差値等の集団準拠評価に偏重しており、従来の大学受験に対応した模擬試験と大差なく、基礎診断制度の趣旨とは異なるのではないかな等の厳しい指摘があった。</p> <p>この指摘を踏まえ、学習指導要領の趣旨や高大接続改革の方向性に適い、かつ授業改善や学習意欲の向上等に十分に資する結果提供となるよう、検討することが望ましい。</p> <p>また、集団準拠評価に基づき大学入学者選抜と関連づけた情報提供は基礎診断の認定の対象外であり、基礎診断制度の趣旨について、生徒や学校に対して誤解を生まないよう十分留意されたい。</p>	<p>学習指導要領の趣旨や高大接続改革の方向性に適い、かつ授業改善や学習意欲の向上等に十分に資する結果提供となるよう継続検討を行って参ります</p>
<p>基礎診断の認定基準の一つとして、「試験等の結果（正答状況やスコア等）に対する全体及び領域等毎の評価（ループリックに基づく段階表示をはじめとした「～できる」の記述文による評価など）の考え方と分析の手法を明らかにしていること」を求めているが、英語の領域等毎の評価としては、4技能のバランスのとれた育成に資するものとする事が望ましい。</p>	<p>英語4技能について、「話す」技能については問題、採点基準の提供をしており、観点別の段階評価、その評価観点を示したものを提供しております</p>
<p>高校生の基礎学力の定着を目的とする基礎診断制度の趣旨に照らすと、生徒の学力の推移を可能な限り正確に把握することができる必要がある。このため、単に経験則によるのではなく、統計的指標などを用いて各回の試験で難易度が安定しているか否か（信頼性）の検証や測定内容の妥当性をテスト理論の観点から行うなど、不断の検証・改善に努めることが望</p>	<p>各回で同一の平均点目標を設定し、難易管理の徹底を行っております</p> <p>実施後は、設問別・成績層別の結果データの詳細な分析も行っております</p> <p>今後も不断の検証・改善に努めてまいります</p>

ましい。	
できるだけ多くの生徒が受検しやすくなるよう、基礎診断として求められる要件や、有することが望ましい機能とこれらに係る経費とのバランスを踏まえながら、受検料についてできるだけ低廉な価格設定とすることに加え、経済的に困難な事情にある生徒への配慮を行うことが望ましい。	広く受検いただきやすい料金設定を継続検討して参ります

「高校生のための学びの基礎診断」認定にあたっての指摘事項」に対する回答

団 体 名 : 株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名 : Literas 論理言語力検定 3 級

指摘事項	対応状況
<p>新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、出題内容・形式を考えるにあたっては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領との関連にも留意しつつ、どのような資質・能力を測定しようとするのか ・その資質・能力を測定するには、どのような出題内容・方法が適切か <p>を明確にしなが、検討することが望ましい。</p> <p>また、これらの観点での事後検証を行う際には、学校現場の意見も十分に踏まえて行うことが望ましい。</p>	<p>企画段階において、学習指導要領との関連性に留意しつつ、「どのような力」を測定するものなのかを定義し、出題設計を行っております</p> <p>事後の検証についても学校現場にもご意見をいただきながら行っております</p>
<p>診断結果によって学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資するよう、以下の取組例（例は省略）も参考にするとともに、学校現場のニーズも十分に踏まえつつ、結果提供について、不断の改善に努めることが望ましい。</p> <p>特に、新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、学習内容の定着度合いを正答状況やスコア等によって示すにとどまらず、全体及び領域等毎の「～できる」の記述文による評価を示すなどの工夫を検討することが望ましい。</p> <p>その際、可能な限り学習指導要領に沿った評価を行うことが望ましい。</p> <p>また、「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」などの観点別の評価を実施する場合には、各設問が、新学習指導要領の指導事項に記載されている「知識及び技能」・「思考力、判断力、表現力等」のいずれを</p>	<p>「社会理解力」も含む3領域の結果とは別に、「学びの基礎診断」（国語）としての診断結果が分かりやすいように「語彙運用力」「情報理解力」の2領域の結果を「国語力診断」として記載しています</p> <p>また、正答状況やスコアだけではなく、「～できる」の記述文による評価も行っています</p>

<p>問うているのかの基準・考え方が分からなければ、当該評価が信頼に足るものなのかを判断し得ないことから、学校現場に何らかの形で判断材料を提供することが望ましい。</p>	
<p>高校生の基礎学力の定着を目的とする基礎診断制度の趣旨に照らすと、生徒の学力の推移を可能な限り正確に把握することができる必要がある。このため、単に経験則によるのではなく、統計的指標などを用いて各回の試験で難易度が安定しているか否か（信頼性）の検証や測定内容の妥当性をテスト理論の観点から行うなど、不断の検証・改善に努めることが望ましい。</p>	<p>統計的指標を用いて検定の妥当性・信頼性の検証を行い、安定した難易度による、生徒の学力推移を測定できるよう努めています</p>
<p>できるだけ多くの生徒が受検しやすくなるよう、基礎診断として求められる要件や、有することが望ましい機能とこれらに係る経費とのバランスを踏まえながら、受検料についてできるだけ低廉な価格設定とすることに加え、経済的に困難な事情にある生徒への配慮を行うことが望ましい。</p>	<p>広く受検いただきやすい料金設定については継続検討して参ります 現価格については、前身となる検定と比べても、サービス・機能を充実させたことに反して、比較的低廉な価格を設定していると考えております</p>

「高校生のための学びの基礎診断」認定にあたっての指摘事項」に対する回答

団 体 名 : 株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名 : Literas 論理言語力検定 2 級

指摘事項	対応状況
<p>新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、出題内容・形式を考えるにあたっては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領との関連にも留意しつつ、どのような資質・能力を測定しようとするのか ・その資質・能力を測定するには、どのような出題内容・方法が適切か <p>を明確にしなが、検討することが望ましい。</p> <p>また、これらの観点での事後検証を行う際には、学校現場の意見も十分に踏まえて行うことが望ましい。</p>	<p>企画段階において、学習指導要領との関連性に留意しつつ、「どのような力」を測定するものなのかを定義し、出題設計を行っております</p> <p>事後の検証についても学校現場にもご意見をいただきながら行っております</p>
<p>診断結果によって学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資するよう、以下の取組例（例は省略）も参考にするとともに、学校現場のニーズも十分に踏まえつつ、結果提供について、不断の改善に努めることが望ましい。</p> <p>特に、新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、学習内容の定着度合いを正答状況やスコア等によって示すにとどまらず、全体及び領域等毎の「～できる」の記述文による評価を示すなどの工夫を検討することが望ましい。</p> <p>その際、可能な限り学習指導要領に沿った評価を行うことが望ましい。</p> <p>また、「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」などの観点別の評価を実施する場合には、各設問が、新学習指導要領の指導事項に記載されている「知識及び技能」・「思考力、判断力、表現力等」のいずれを問</p>	<p>「社会理解力」も含む3領域の結果とは別に、「学びの基礎診断」(国語)としての診断結果が分かりやすいように「語彙運用力」「情報理解力」の2領域の結果を「国語力診断」として記載しています</p> <p>また、正答状況やスコアだけではなく、「～できる」の記述文による評価も行っています</p>

<p>うているのかの基準・考え方が分からなければ、当該評価が信頼に足るものなのかを判断し得ないことから、学校現場に何らかの形で判断材料を提供することが望ましい。</p>	
<p>高校生の基礎学力の定着を目的とする基礎診断制度の趣旨に照らすと、生徒の学力の推移を可能な限り正確に把握することができる必要がある。このため、単に経験則によるのではなく、統計的指標などを用いて各回の試験で難易度が安定しているか否か（信頼性）の検証や測定内容の妥当性をテスト理論の観点から行うなど、不断の検証・改善に努めることが望ましい。</p>	<p>統計的指標を用いて検定の妥当性・信頼性の検証を行い、安定した難易度による、生徒の学力推移を測定できるよう努めています</p>
<p>できるだけ多くの生徒が受検しやすくなるよう、基礎診断として求められる要件や、有することが望ましい機能とこれらに係る経費とのバランスを踏まえながら、受検料についてできるだけ低廉な価格設定とすることに加え、経済的に困難な事情にある生徒への配慮を行うことが望ましい。</p>	<p>広く受検いただきやすい料金設定については継続検討して参ります 現価格については、前身となる検定と比べても、サービス・機能を充実させたことに反して、比較的低廉な価格を設定していると考えております</p>

「高校生のための学びの基礎診断」認定にあたっての指摘事項」に対する回答

団 体 名 : 株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名 : ベネッセ数学理解力検定

指摘事項	対応状況
<p>新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、出題内容・形式を考えるにあたっては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領との関連にも留意しつつ、どのような資質・能力を測定しようとするのか ・その資質・能力を測定するには、どのような出題内容・方法が適切か <p>を明確にしなが、検討することが望ましい。</p> <p>また、これらの観点での事後検証を行う際には、学校現場の意見も十分に踏まえて行うことが望ましい。</p>	<p>学習指導要領を踏まえ、各分野における基本的な知識・技能、数学的な思考力・判断力・表現力を、複数の小問で段階的に問う出題を行っています</p>
<p>診断結果によって学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資するよう、以下の取組例（例は省略）も参考にするとともに、学校現場のニーズも十分に踏まえつつ、結果提供について、不断の改善に努めることが望ましい。</p> <p>特に、新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、学習内容の定着度合いを正答状況やスコア等によって示すにとどまらず、全体及び領域等毎の「～できる」の記述文による評価を示すなどの工夫を検討することが望ましい。</p> <p>その際、可能な限り学習指導要領に沿った評価を行うことが望ましい。</p> <p>また、「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」などの観点別の評価を実施する場合には、各設問が、新学習指導要領の指導事項に記載されている「知識及び技能」・「思考力、判断力、表現力等」のいずれを問</p>	<p>受検者にはスコア・グレードを返却していますが、それぞれのスコア・グレードについて、行動指標として「～ができる」という表現で要件を記しています</p> <p>また、受検者が取得した以外の行動指標も閲覧できるようにすることで、ステップアップするために必要な事柄が受検者自身で確認できるようにしています</p>

<p>うているのかの基準・考え方が分からなければ、当該評価が信頼に足るものなのかを判断し得ないことから、学校現場に何らかの形で判断材料を提供することが望ましい。</p>	
<p>高校生の基礎学力の定着を目的とする基礎診断制度の趣旨に照らすと、生徒の学力の推移を可能な限り正確に把握することができる必要がある。このため、単に経験則によるのではなく、統計的指標などを用いて各回の試験で難易度が安定しているか否か（信頼性）の検証や測定内容の妥当性をテスト理論の観点から行うなど、不断の検証・改善に努めることが望ましい。</p>	<p>数学理解力検定では、統計的な手法を用いて各検定回の難易度を等化し、正しいスコアを提供できるようにしています また、各検定回の実施後にはデータを用いた総括を行い、安定した難易度による、生徒の学力推移を測定できるよう努めています</p>
<p>できるだけ多くの生徒が受検しやすくなるよう、基礎診断として求められる要件や、有することが望ましい機能とこれらに係る経費とのバランスを踏まえながら、受検料についてできるだけ低廉な価格設定とすることに加え、経済的に困難な事情にある生徒への配慮を行うことが望ましい。</p>	<p>広く受検いただきやすい料金設定を継続検討して参ります</p>

「「高校生のための学びの基礎診断」 認定にあたっての指摘事項」に対する回答

団 体 名 : 株式会社ベネッセコーポレーション

測定ツール名 : GTEC Advanced タイプ、Basic タイプ、Core タイプ

指摘事項	対応状況
<p>新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、出題内容・形式を考えるにあたっては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領との関連にも留意しつつ、どのような資質・能力を測定しようとするのか ・その資質・能力を測定するには、どのような出題内容・方法が適切か <p>を明確にしなが、検討することが望ましい。</p> <p>また、これらの観点での事後検証を行う際には、学校現場の意見も十分に踏まえて行うことが望ましい。</p>	<p>「GTEC」は企画段階において、学習指導要領との関連性に留意して「測定する力」を技能・パートごとに決定をしています</p> <p>「GTEC」をご活用いただいている現場の先生とディスカッションを行い、問題内容について意見をいただいた点には、今後の作問・制作にいかしていく予定です</p>
<p>診断結果によって学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資するよう、以下の取組例(表は省略)も参考にするとともに、学校現場のニーズも十分に踏まえつつ、結果提供について、不断の改善に努めることが望ましい。</p> <p>特に、新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、学習内容の定着度合いを正答状況やスコア等によって示すにとどまらず、全体及び領域等毎の「~できる」の記述文による評価を示すなどの工夫を検討することが望ましい。</p> <p>その際、可能な限り学習指導要領に沿った評価を行うことが望ましい。</p> <p>また、「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」などの観点別の評価を実施する場合には、各設問が、新学習指導要領の指導事項に記載されている「知識及び技能」・「思考力、判断力、表現力等」のいずれを問</p>	<p>「GTEC」は2019年度よりCEFR-Jの指標を用いて結果を返却しておりますが、単に、スコアやCEFR-Jのレベルだけを返却するのではなく、該当するCEFR-Jレベルの「~できる」というCan doメッセージを4技能トータル、および、各技能それぞれで提示し、「英語がどの程度つかえるようになったか」を受験者が感じられるように工夫をしています。また、技能別のスキルUPアドバイスにおいても、「~ができている」という到達レベルに加え、各技能を伸ばしていくには日々の学習で何をすべきかをアドバイスしています。また、技能別で詳細の結果を返却しているため「表現力」に相当するライティングとスピーキングの結果も個別に確認することができます</p>

<p>うているのかの基準・考え方が分からなければ、当該評価が信頼に足るものなのかを判断し得ないことから、学校現場に何らかの形で判断材料を提供することが望ましい。</p>	
<p>高校生の基礎学力の定着を目的とする基礎診断制度の趣旨に照らすと、生徒の学力の推移を可能な限り正確に把握することができる必要がある。このため、単に経験則によるのではなく、統計的指標などを用いて各回の試験で難易度が安定しているか否か（信頼性）の検証や測定内容の妥当性をテスト理論の観点から行うなど、不断の検証・改善に努めることが望ましい。</p>	<p>「GTEC」は項目反応理論（IRT）というテスト理論に基づいて毎回のスコアを算出しております。具体的には、各問題に客観的につけられた「困難度」「識別力」のパラメータと受検者の正誤・素点情報から、受検者の英語力を推定し、スコアとして返却しています</p> <p>IRTを用いたテストでは、問題の難易度に関わらず同じ能力の受検者は同じスコアになるようにスコアが算出されますが、問題の難易度が安定しているかについては、作問工程において確認を行っております。具体的には、各タイプごとにあらかじめ決められている語いや文法の範囲を逸脱していないか、受検者に与えるタスクの複雑さが適切であるか、などを確認しています</p>
<p>できるだけ多くの生徒が受検しやすくなるよう、基礎診断として求められる要件や、有することが望ましい機能とこれらに係る経費とのバランスを踏まえながら、受検料についてできるだけ低廉な価格設定とすることに加え、経済的に困難な事情にある生徒への配慮を行うことが望ましい。</p>	<p>広く受検いただきやすい料金設定については継続検討して参ります</p> <p>現価格については他団体の英語テストと比して元々低廉な価格設定していると考えております</p>

「高校生のための学びの基礎診断」認定にあたっての指摘事項」に対する回答

団体名：ブリティッシュ・カウンシル

測定ツール名：Aptis for Teens（アプティスフォーティーンズ/中高生向け Aptis）

指摘事項	対応状況
<p>学習指導要領との関連</p> <p>新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、出題内容・形式を考えるにあたっては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領との関連にも留意しつつ、どのような資質・能力を測定しようとするのか ・その資質・能力を測定するには、どのような出題内容・方法が適切かを明確にしながら、検討することが望ましい。 <p>また、これらの観点での事後検証を行う際には、学校現場の意見も十分に踏まえて行うことが望ましい。</p>	<p>Aptis for Teens は、実際に英語を使用する場面に即した出題で、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」、「話すこと」における英語運用能力の測定を目的としており、新学習指導要領で求める積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や能力の測定が可能な出題設定となっています。</p> <p>生徒の資質や英語でのコミュニケーション力を測定し、学びにつなげるための継続的な研究を行っており、2020年4月以降には新指導要領と新検定教科書を参照し、Aptis for Teens の出題内容を検証する研究を始める計画となっていました。新型コロナウイルス感染拡大等の状況で現在計画を中止しております。この研究には、日本の教員や研究者の参加を予定しています。</p>
<p>結果提供について</p> <p>診断結果によって学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資するよう、以下の取組例も参考にするとともに、学校現場のニーズも十分に踏まえつつ、結果提供について、不断の改善に努めることが望ましい。特に新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような</p>	<p>Aptis for Teensは、コアパートとして語彙と文法のテストを導入し、基本的な知識と技能の定着を測定した上、オープンクエスチョン形式の出題で思考力・判断力・表現力を評価できるよう設計されています。結果は粗点だけでなく、CEFRでも表示されています。CEFRのディスクリプターを結果とともに提供することで、「～ができる」英語力であるかを理解し、次の学びにつなげていただけるようにしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 受検者個人 <p>学校を通じて紙媒体と電子データによって結果を提供していますが、具体的な学習のアドバイスや復習問題などの掲載は未だありません。今後検討を続けていきます。</p>

<p>力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、学習内容の定着度合いを正答状況やスコア等によって示すにとどまらず、全体及び領域等毎の「～できる」の記述文による評価を示すなどの工夫を検討することが望ましい。その際、可能な限り学習指導要領に沿った評価を行うことが望ましい。また、「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」などの観点別の評価を実施する場合には、各設問が、新学習指導要領の指導事項に記載されている「知識及び技能」・「思考力、判断力、表現力等」のいずれを問うているのかの基準・考え方が分からなければ、当該評価が信頼に足るものなのかを判断し得ないことから、学校現場に何らかの形で判断材料を提供することが望ましい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校等 <p>学級・学年別の概況・分析結果—平均点、得点分布、全体及び領域等毎の評価の分布、経年変化などの結果を紙媒体と電子データで提供をしていますが、課題が多く見られた分野や誤答類型に基づいた指導のアドバイスや復習問題の掲載はありません。今後検討を続けていきます。</p>
<p>運営その他に関すること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 試験内容の不断の検証 2. 低廉な受験料 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 弊機関の研究チームと外部研究者により、継続的に信頼性や測定内容の妥当性の検証を行っています。検証の内容は弊機関ウェブサイト公開をしています。 https://www.britishcouncil.org/exam/aptis/research/publications また、採点の質を担保するため採点官の定期的なモニター、指導と研修も行っています。 2. 受験者数に応じた受験料の設定や、経済的に困難な事情にある生徒への配慮を、学校と連携して行います。

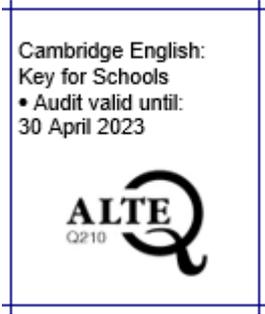
「高校生のための学びの基礎診断」認定にあたっての指摘事項」に対する回答

団 体 名 : ケンブリッジ大学英語検定機構
 測定ツール名 : ケンブリッジ英語検定
A2 Key for Schools

指摘事項	対応状況
<p>新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、出題内容・形式を考えるにあたっては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領との関連にも留意しつつ、どのような資質・能力を測定しようとするのか ・その資質・能力を測定するには、どのような出題内容・方法が適切かを明確にしなが、検討することが望ましい。 <p>また、これらの観点での事後検証を行う際には、学校現場の意見も十分に踏まえて行うことが望ましい。</p>	<p>A2 Key という試験の名称にあるように、主に CEFR A2 レベル（当試験では、A1-B1 レベルの認定が可能）の力を測る試験であり「日常生活で遭遇することばの理解ができる。例えば、日常生活に関連した基本的なフレーズや表現を使ったり、理解したり、また自己紹介をしたり、基本的な質問や個人的なことに関する質問に答えることができる」ことを目的としている。これはコミュニケーション英語Ⅰの目標「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う」、英語表現Ⅰの目標「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う」に合致していると言える。</p> <p>さらに、出来栄が良く、B1 レベルの英語力を有すると評価された場合は、次のような能力を測ることもできる試験である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング&ライティング 日常繰り返されるような情報や記事について理解できる身近で予測可能な事柄についてレターを書いたり、メモをとることができる。 ・リスニング&スピーキング 簡単な指示や広告を理解できる。 <p>抽象的/文化的な問題について、限られた方法ではあるが意見を述べることができ、よく知る分野であればアドバイスを与えることができる。</p> <p>測定したいスキルが正しく測定できているのか、世界中</p>

	<p>の現場の先生や専門家からのフィードバックを活かし、2020年1月に改訂版が導入された。</p> <p>ケンブリッジ本部に改訂版プロジェクトチームが2014年から編成され、学校現場の状況を正確に知るべく、プレテストやフォーカスグループへのヒアリングを実施、「英語学習の低年齢化により、従来よりも出来栄の良い生徒の存在」が教室において珍しくない現状に接し、そうした優れた生徒を含め、教室でのモチベーションを維持、向上させるため、生徒の能力をCEFRレベルで正しく反映することができるように、スピーキングおよびライティング・テストで測る機会を増やした。</p> <p>【改訂された点】</p> <p>A2 Key(中高生対象の For Schools シリーズを含む)のスピーキングテストでは、即興性が求められる「やり取り」や「流暢さ」のスキルにフォーカスへと改訂。</p> <p>改訂前) 受検者2名が質問役と回答役のそれぞれを担う質疑応答形式</p> <p>改訂後) 「やり取り」に必要な即興性等のスキルを測定できるよう、受検者二人が協力して取り組むタスク・ベースの出題へと改訂された。</p> <p>ライティングテストでは、英作文を1題追加し、計2題へと改訂。各問題の必要語数の上限をなくした。</p> <p>1. 改訂前) 25-35 語 → 改訂後) 25 語以上</p> <p>2. 改訂後) (新規) 35 語以上</p>
<p>診断結果によって学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資するよう、以下の取組例も参考にするとともに、学校現場のニーズも十分に踏まえつつ、結果提供について、不断の改善に努めることが望ましい。</p> <p>特に、新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、学習内容の定着度合いを正答状況やスコア等によって示すにとどまらず、全体及び領域等毎の「～できる」の記述文による評価を示すなどの工夫を検討することが望ましい。その際、可能な限</p>	<p>弊機関が発行する認定証(Certificate)の裏面には、ヨーロッパ言語テスト協会(ALTE)の設立メンバー機関の一つとして、確実に試験が実生活で使われる言語スキルを反映するようCEFRとCan Doステートメントを使用して各レベルの能力を説明している。</p> <p>受検者は日常生活の例について取り上げられた「CAN x x x (できる)」の記述を通じて自らの英語力の到達点を実感することができる。</p>

<p>り学習指導要領に沿った評価を行うことが望ましい。</p>	
<p>「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」などの観点別の評価を実施する場合には、各設問が、新学習指導要領の指導事項に記載されている「知識及び技能」・「思考力、判断力、表現力等」のいずれを問うているのかの基準・考え方が分からなければ、当該評価が信頼に足るものなのかを判断し得ないことから、学校現場に何らかの形で判断材料を提供することが望ましい。</p>	<p>知識・技能を問う問題は、選択式問題(Reading, Listening)。一方、思考力・判断力・表現力等を問う問題については、短答式問題(Listening, Writing)、記述式問題(Writing)、ペア型面接(Speaking)と出題方針からいずれを問う問題であるか分かる。</p> <p>【補足】 頁末参照のこと</p>
<p>≪試験内容の不断の検証≫</p> <p>高校生の基礎学力の定着を目的とする基礎診断制度の趣旨に照らすと、生徒の学力の推移を可能な限り正確に把握することができる必要がある。このため、単に経験則によるのではなく、統計的指標などを用いて各回の試験で難易度が安定しているか否か(信頼性)の検証や測定内容の妥当性をテスト理論の観点から行うなど、不断の検証・改善に努めることが望ましい。</p>	<p>・ケンブリッジ英語検定(A2 Key for Schools)は年間20回を超える世界共通試験日で試験が予定されているが、どの回を受検いただいても受検者にとって同じ難度の試験であることを保証する「アイテムバンキングシステム」による作問を行っている。</p> <p>アイテムバンキングによるアプローチ(信頼性と一貫性の構築のために)</p> <p>https://www.cambridgeenglish.org/jp/research-and-validation/</p> <p>・アイテムバンクのテスト項目はトライアル(Writing, Speaking)、プレテスト(Reading, Listening)を通じて評価・分析され、基準を満たすことが確認されたテスト問題はアイテムバンクに加えられ、常に新しい素材で更新される。したがって、ケンブリッジ英語検定の試験問題は、バージョンが異なっても必ず同じ難易度基準になるように作問されている。</p> <p>ALTE(ヨーロッパ言語テスト協会)による妥当性の検証を含む、5年に1度の監査の結果、ヤングラーナーズ対象のケンブリッジ英語検定を含む全てのケンブリッジ英語検定について、ALTEの基準をクリアしている品質を保証する「Qマーク」がALTE参画以来ずっと付与されている。最近の監査は2018年に行われ、A2 Key for Schoolsを含むケンブリッジ英語検定(A2 Key から C2 Proficiency まで)全ての試験に2023年4月末日まで有効の「Qマーク」が付与された。</p> <p>https://alte.org/resources/Documents/2019-12-</p>

	<p>17%20ALTE%20Framework%20v31.docx (Page3)</p> 
<p>≪低廉な受検料≫ できるだけ多くの生徒が受検しやすくなるよう、基礎診断として求められる要件や、有することが望ましい機能とこれらに係る経費とのバランスを踏まえながら、受検料についてできるだけ低廉な価格設定とすることに加え、経済的に困難な事情にある生徒への配慮を行うことが望ましい。</p>	<p>グローバルには受検料は毎年数パーセント値上がりが続く中、日本は 2020 年 7 月まで据え置き設定*。 *消費税率増による値上がりは別</p>

【補足】

・思考力・判断力・表現力育成に役立つさまざまな教材が無料でケンブリッジ英語検定のサイトからダウンロードできる。

無料教材の一例)

教師用ハンドブック

<https://keyandpreliminary.cambridgeenglish.org/resources.htm>

A2 Key サンプル問題

<https://www.cambridgeenglish.org/images/504343-a2-key-for-schools-2020-sample-tests.zip>

A2 Key for Schools 単語帳

<https://www.cambridgeenglish.org/images/506886-a2-key-2020-vocabulary-list.pdf>

A2 Key for Schools スピーキングテスト動画

<https://youtu.be/ZjGt6r8XSTg>

[https://keyandpreliminary.cambridgeenglish.org/ugc-](https://keyandpreliminary.cambridgeenglish.org/ugc-1/uploads/pageblocks/339/cf13831eda9f1ed85bffb78c1c8875ec.pdf)

[1/uploads/pageblocks/339/cf13831eda9f1ed85bffb78c1c8875ec.pdf](https://keyandpreliminary.cambridgeenglish.org/ugc-1/uploads/pageblocks/339/cf13831eda9f1ed85bffb78c1c8875ec.pdf)

A2 Key Activity ポスター

<https://assets.cambridgeenglish.org/schools/a2-key-posters.pdf>

A2 Key Activity ポスターを利用して A2 Key for Schools 試験対策ができる指導案集

<https://assets.cambridgeenglish.org/schools/lessonplans/lessonplans-a2.pdf>

Tips for Listening

<https://www.cambridgeenglish.org/images/562911-tips-for-listening.pdf>

Tips for Reading - students' version

<https://www.cambridgeenglish.org/images/562912-tips-for-reading-students.pdf>

Tips for Reading - teachers' version

<https://www.cambridgeenglish.org/images/562913-tips-for-reading-teachers.pdf>

A2 Key for Schools Listening lesson plans

<https://keyandpreliminary.cambridgeenglish.org/resources.htm>

A2 Key for Schools Reading and Writing lesson plans

<https://www.cambridgeenglish.org/images/563326-A2-Key-for-Schools-reading-and-writing-lesson-plans.zip>

A2 Key for Schools Speaking lesson plans

<https://www.cambridgeenglish.org/images/563327-A2-Key-for-Schools-speaking-lesson-plans.zip>

教師用「Readingのコツ」には、英語のアクティビティーを通じて「Collaboration 協力」「Communication コミュニケーション」「Critical Thinking 批判的思考力」の育成が可能と報告されている。

「高校生のための学びの基礎診断」認定にあたっての指摘事項」に対する回答

団 体 名 : ケンブリッジ大学英語検定機構
 測定ツール名: ケンブリッジ英語検定 4 技能 CBT
 (Linguaskill リンガスキル)

指摘事項	対応状況
<p>新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、出題内容・形式を考えるにあたっては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領との関連にも留意しつつ、どのような資質・能力を測定しようとするのか ・その資質・能力を測定するには、どのような出題内容・方法が適切かを明確にしなが、検討することが望ましい。 <p>また、これらの観点での事後検証を行う際には、学校現場の意見も十分に踏まえて行うことが望ましい。</p>	<p>測定しようとする資質・能力の具体的内容と、対応する学習指導要領の関連項目については「(様式4) 測定しようとする資質・能力の具体的内容について」で前回報告済み。</p> <p>2019年10-12月に無料トライアルテスト(ライティング、スピーキング)をグローバルに実施、日本でも約250名の高校生が参加。現場での気付きについてフィードバックいただき、今後の開発の一助とさせて頂いた。(トライアルを通じて初めて当テストを体験した高校の先生から「(生徒から)大変好評」との感想を頂いた。)</p>
<p>診断結果によって学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資するよう、以下の取組例も参考にするとともに、学校現場のニーズも十分に踏まえつつ、結果提供について、不断の改善に努めることが望ましい。</p> <p>特に、新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、学習内容の定着度合いを正答状況やスコア等によって示すにとどまらず、全体及び領域等毎の「~できる」の記述文による評価を示すなどの工夫を検討することが望ましい。その際、可能な限り学習指導要領に沿った評価を行うことが望ましい。</p> <p>「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」などの観点別の評価を実施する場合には、各設問が、新学習指導要</p>	<p>弊機関が発行する認定証(Certificate)の裏面には、ヨーロッパ言語テスト協会(ALTE)の設立メンバー機関の一つとして、確実に試験が実生活で使われる言語スキルを反映するようCEFRとCan Doステートメントを使用して各レベルの能力を説明している。</p> <p>学習指導要領に沿った内容であることは、前回提出資料にて報告済み。</p> <p>受検者は日常生活の例について取り上げられた「CAN x x (できる)」の記述を通じて自らの英語力の到達点を実感することができる。さらにリンガスキルはケンブリッジが作問するその他の試験(ケンブリッジ英語検定やIELTS)と共通する尺度のCambridge Englishスケールでスコア(82~180+)がテストレポートに記載されるため世界で通用する英語力の到達を実感できる利点がある。</p> <p>「知識・技能」を問う問題は、ListeningおよびReadingの選択式問題、「思考力・判断力・表現力」は、Reading</p>

<p>領の指導事項に記載されている「知識及び技能」・「思考力、判断力、表現力等」のいずれを問うているのかの基準・考え方が分からなければ、当該評価が信頼に足るものなのかを判断し得ないことから、学校現場に何らかの形で判断材料を提供することが望ましい。</p>	<p>の短答式問題、Writing の記述式問題、PC 録音方式による Speaking テストの問題で問われている。当該評価が信頼に足るものであるかについては、トライアルレポート（日本語訳）を公表する等して判断の材料を弊機関のウェブサイト上で共有させて頂いている。</p> <p>https://www.cambridgeenglish.org/jp/exams-and-tests/linguaskill/information-about-the-test/the-science-behind-the-test/</p>
<p>《試験内容の不断の検証》</p> <p>高校生の基礎学力の定着を目的とする基礎診断制度の趣旨に照らすと、生徒の学力の推移を可能な限り正確に把握することができる必要がある。このため、単に経験則によるのではなく、統計的指標などを用いて各回の試験で難易度が安定しているか否か（信頼性）の検証や測定内容の妥当性をテスト理論の観点から行うなど、不断の検証・改善に努めることが望ましい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どのセッションを受検いただいても受検者にとって同じ難度の試験であることを保証する「アイテムバンキングシステム」による作問を行っている。 ・コンピューター適応型テストの Listening & Reading 問題は、各受検者による解答の正誤結果に対応して作成される。 ・アイテムバンキングによるアプローチ（信頼性と一貫性の構築のために） <p>https://www.cambridgeenglish.org/jp/research-and-validation/</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイテムバンクのテスト項目はトライアル(Writing, Speaking)、プレテスト(Reading, Listening)を通じて評価・分析され、基準を満たすことが確認されたテスト問題はアイテムバンクに加えられる。 ・2019年10-12月にグローバルに大規模実施した3回目の無料トライアルテスト（ライティング、スピーキング）もこうした不断の検証努力の表れといえるだろう。
<p>《低廉な受検料》</p> <p>できるだけ多くの生徒が受検しやすくなるよう、基礎診断として求められる要件や、有することが望ましい機能とこれらに係る経費とのバランスを踏まえながら、受検料についてできるだけ低廉な価格設定とすることに加え、経済的に困難な事情にある生徒への配慮を行うことが望ましい。</p>	<p>公開会場の場合、予価 9,000 円（税込）であるが、自校実施の場合、会場および PC、ヘッドセットなど提供の協力費として割引できる可能性あり。</p> <p>ただし、遠隔地の学校の場合、試験監督の派遣費用が別途掛かることあり。</p> <p>【ご参考】大学生・社会人対象のビジネスパーソン向けのリンガスキル(Linguaskill ビジネス)は例えば4技能セット価格で 11,900 円で現在提供されているが、高校生対象のリンガスキル (General) はより利用しやすい受検料設定とさせて頂いている。</p>

「高校生のための学びの基礎診断」認定にあたっての指摘事項」に対する回答

団体名：株式会社教育測定研究所
測定ツール名：英検 IBA テストセット C

指摘事項	対応状況
<p>新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、出題内容・形式を考えるにあたっては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領との関連にも留意しつつ、どのような資質・能力を測定しようとするのか ・その資質・能力を測定するには、どのような出題内容・方法が適切かを明確にしなが、検討することが望ましい。 <p>また、これらの観点での事後検証を行う際には、学校現場の意見も十分に踏まえて行うことが望ましい。</p>	<p>「英検 IBA TEST C 4 技能版」の問題は、学習指導要領との関連に配慮して資質・能力を測定できるよう設計しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結果提供の具体的な内容については、「英検 IBA TEST C 4 技能版」には、CSE スコア、英検級レベル測定、Can-do、得意分野・不得意分野など豊富な情報を掲載しています。また、英語学習の動機づけのため、判定された級レベルに見合った英検の出題例なども掲載しています。学校向けには団体成績表を提供しており、団体成績表には、スコアの平均点、スコア分布図や英検級レベル別人数分布図など、英語指導に役立つ情報を掲載しています。
<p>診断結果によって学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資するよう、以下の取組例も参考にするとともに、学校現場のニーズも十分に踏まえつつ、結果提供について、不断の改善に努めることが望ましい。</p> <p>特に、新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、学習内容の定着度合いを正答状況やスコア等によって示すにとどまらず、全体及び領域等毎の「～できる」の記述文による評価を示すなどの工夫を検討することが望ましい。</p> <p>その際、可能な限り学習指導要領に沿った評価を行うことが望ましい。</p> <p>また、「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・結果提供の具体的な方法は、成績資料は専用WEBサイト(英検ウェブサイト上の団体責任者・先生用ログインサービス)から PDF 形式でダウンロードできます。また、英検 IBA のウェブサイトでは、学習者向け、指導者向けに、成績表の活用例を詳しく紹介しています。

<p>どの観点別の評価を実施する場合には、各設問が、新学習指導要領の指導事項に記載されている「知識及び技能」・「思考力、判断力、表現力等」のいずれを問うているのかの基準・考え方が分からなければ、当該評価が信頼に足るものなのかを判断し得ないことから、学校現場に何らかの形で判断材料を提供することが望ましい。</p>	
<p>高校生の基礎学力の定着を目的とする基礎診断制度の趣旨に照らすと、生徒の学力の推移を可能な限り正確に把握することができる必要がある。このため、単に経験則によるのではなく、統計的指標などを用いて各回の試験で難易度が安定しているか否か（信頼性）の検証や測定内容の妥当性をテスト理論の観点から行うなど、不断の検証・改善に努めることが望ましい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試験内容の検証は、「英検IBA TEST C 4 技能版」の問題は、回答状況を統計的に分析し、質的な検証をおこなったうえで出題しています。
<p>できるだけ多くの生徒が受検しやすくなるよう、基礎診断として求められる要件や、有することが望ましい機能とこれらに係る経費とのバランスを踏まえながら、受検料についてできるだけ低廉な価格設定とすることに加え、経済的に困難な事情にある生徒への配慮を行うことが望ましい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受検料は、学校側での試験実施などを通じ、コストを抑えることにより、受検者への負担が過大とならないよう配慮しております。

「高校生のための学びの基礎診断」認定にあたっての指摘事項」に対する回答

団 体 名 : 公益財団法人日本漢字能力検定協会

測定ツール名: 文章読解・作成能力検定 準2級・3級・4級

指摘事項	対応状況
<p>新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、出題内容・形式を考えるにあたっては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領との関連にも留意しつつ、どのような資質・能力を測定しようとするのか ・その資質・能力を測定するには、どのような出題内容・方法が適切かを明確にしなが、検討することが望ましい。 <p>また、これらの観点での事後検証を行う際には、学校現場の意見も十分に踏まえて行うことが望ましい。</p>	<p>I. 出題に関すること</p> <p>図表読解や意見文等の問題を通じて『思考力』『表現力』を測定することを目指している。それが達成できているかを以下の施策を通じて確認を行い、問題作成に反映していく。</p> <p><input type="checkbox"/> 作問担当による教員ヒアリングの実施</p> <p>作問を担当する部署の担当者が、直接学校を訪問し、国語科の先生方から指導上の課題や出題内容についてのヒアリングを行った。今年度は、公立・私立を合わせて15校（文章検未実施校を含む）を訪問した。</p> <p><ヒアリング項目例></p> <p>文章指導上の課題</p> <p>授業場面における文章検コンテンツの指導しやすさなど</p> <p><回答例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・検定で意見文を作成するが、実際の答案が返却されないため、減点個所が分からない。そのため、「思考力」や「表現力」の育成のための振り返り学習がしにくい。 ・文章検の出題範囲が、探求学習、国語総合、論理国語など、複数の科目をまたいでいると感じる。 <p><input type="checkbox"/> アンケート調査の実施</p> <p>2019年度第3回検定より、文章検実施校に対して継続的にアンケート調査を実施していく。先生方の指導上の課題や注力ポイント、結果資料の内容について、より多くの意見・要望を収集し、今後の改善事項としていく予定である。</p>

<アンケート項目例>

文章検の出題範囲の妥当性

文章検の出題形式の妥当性

指導場面を想定した改善項目など

診断結果によって学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善や教師による指導の工夫・充実に資するよう、以下の取組例も参考にするとともに、学校現場のニーズも十分に踏まえつつ、結果提供について、不断の改善に努めることが望ましい。

特に、新高等学校学習指導要領において、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重視されていることも踏まえ、学習内容の定着度を正答状況やスコア等によって示すにとどまらず、全体及び領域等毎の「~できる」の記述文による評価を示すなどの工夫を検討することが望ましい。その際、可能な限り学習指導要領に沿った評価を行うことが望ましい。

また、「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」などの観点別の評価を実施する場合には、各設問が、新学習指導要領の指導事項に記載されている「知識及び技能」・「思考力、判断力、表現力等」のいずれを問うているのかの基準・考え方が分からなければ、当該評価が信頼に足るものなのかを判断し得ないことから、学校現場に何らかの形で判断材料を提供することが望ましい。

Ⅱ. 結果提供に関すること

検定受検後の学習改善、および、先生方の指導の工夫・充実に目的として以下の改善を行った。

□受検者向け検定結果通知の文言の具体化

結果資料の文言を改定し、「できていること」「減点された箇所」「減点された理由」を具体的に示した。

<改善前>

段落構成：条件通りではありません。

<改善後>

段落構成：段落が3つでない、冒頭に意見を述べている、事実または意見または理由がないなど条件1と異なっています。

□自己採点用ポイントの記載

標準解答内に、自己採点のためのポイントと配点を記載した。実際の採点基準ほど細かく記載していないが、生徒自身が自己採点を大まかに行えるように改定を行った。

□『誤答例集』の発行

検定結果資料として、新たに教員向けの『誤答例集』を発行した。これまでの採点経験をもとに、想定されるよくある誤答をまとめ、指導のポイントをまとめている。巻末には生徒用の振り返り学習プリントをつけており、検定結果通知をもとに、間違えたポイントの学び直しができるようにした。